

科目一覧（学則第21条の別表1）

■クリエイター科 共通科目							1,155
Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【森林・材料系】						90
C2- 1	森林文化論	必須	川尻秀樹	非常勤講師	講義	1・2年通年	30
C2- 2	森林から木材、暮らしへ2	必須	柳澤直	担当教員	講義	2年前期	30
C2- 3	森林公共政策	選択	川尻秀樹	非常勤講師	講義	2年前期	30
	【情報・ビジネス系】						45
C2- 4	コミュニティビジネス起業論(実践編)	選択	嵯峨創平	杉本和也 / 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師	講義	2年通年	45
	【プロジェクト系】						1,020
C2- 5	ウッドプロジェクト	選択	嵯峨創平	廣田桂子 / 玉木一郎	講義・実習	2年通年	60
C2- 6	コロキウム	必須	柳澤直	担当講座	講義	1・2年通年	60
C2- 7	国内研修	選択	津田裕	担当教員	実習	2年通年	30
C2- 8	インターンシップ	選択	科長	指導教員	実習	1・2年通年	60
C2- 9	課題研究	必須	科長	指導教員	講義・実習	2年通年	720
C2- 10	プロジェクト	選択	柳澤直	担当教員	実習	1・2年通年	90

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【林業経営】						225
C2- 11	林業経営	選択	杉本和也		講義	2年前期	30
C2- 12	市場経済の中の林業	選択	杉本和也	非常勤講師	講義	2年前期	15
C2- 13	森林政策・森林計画	選択	池戸秀隆		講義	2年前期	30
C2- 14	森林評価・収穫調査	選択	池戸秀隆	川尻秀樹 / 横井秀一 / 杉本和也	講義・実習	2年前期	30
C2- 15	森林経営計画実習	選択	横井秀一	川尻秀樹 / 杉本和也	実習	2年後期	60
C2- 16	木材の販売戦略	選択	川尻秀樹	非常勤講師	講義・実習	2年前期	30
C2- 17	国内の先進林業事例	選択	川尻秀樹	横井秀一 / 杉本和也 / 池戸秀隆	講義・実習	2年通年	30
	【森林管理】						120
C2- 18	樹木学指導実習	選択	横井秀一		実習	2年通年	30
C2- 19	植物同定実習	選択	柳澤直	津田格 / 玉木一郎	実習	2年前期	30
C2- 20	森林施業演習	選択	横井秀一		実習	2年通年	60
	【森林利用】						210
C2- 21	木材生産システムの応用	選択	杉本和也	非常勤講師	講義	2年前期	30
C2- 22	伐採・搬出指導実習	選択	杉本和也		実習	2年後期	60
C2- 23	高性能林業機械操作基礎	選択	杉本和也	川尻秀樹 / 池戸秀隆	講義・実習	2年前期	60
C2- 24	林業機械の操作	選択	池戸秀隆	杉本和也 / 川尻秀樹	実習	2年前期	60
	【関連科目】						180
C2- 25	有用植物実習	選択	津田格	柳澤直 / 玉木一郎	実習	2年前期	30
C2- 26	農業科学・林業薬剤	選択	津田格	非常勤講師	講義	2年前期	30
C2- 27	造園土木技術	選択	柳澤直	非常勤講師	実習	2年前期	30
C2- 28	木材生産のための木材知識	選択	吉野安里		講義	2年前期	30
C2- 29	車両系建設機械・不整地運搬技能	選択	川尻秀樹		講義・実習	2年前期	30
C2- 30	フォークリフト運転技能	選択	川尻秀樹		講義・実習	2年前期	30

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【山村地域の基本的理解、理念】						45
C2- 31	里山を考える	選択	柳澤直	津田裕 / 玉木一郎	講義	1・2年通年	30
C2- 32	山村づくりゼミ 2	選択	原島幹典	嵯峨創平 / 柳澤直 / 津田裕 / 玉木一郎	講義・実習	2年通年	15
	【山村生活の実践】						60
C2- 33	地域生活実習 2 (実践)	選択	原島幹典	非常勤講師	実習	2年通年	60
	【生物・生態学の基礎】						30
C2- 34	植物同定実習	選択	柳澤直	津田裕 / 玉木一郎	実習	2年前期	30
	【山村の自然生態、環境、資源的理解】						150
C2- 35	林産物実習 (春夏編)	選択	津田裕		実習	2年前期	30
C2- 36	有用植物実習	選択	津田裕	柳澤直 / 玉木一郎	実習	2年前期	30
C2- 37	山村の自然環境	選択	柳澤直	津田裕 / 玉木一郎	実習	2年前期	30
C2- 38	文化的景観論	選択	嵯峨創平		講義・実習	2年通年	30
C2- 39	環境科学概論	選択	柳澤直	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	2年後期	30
	【山村づくりに必要な知識・技術・理念】						150
C2- 40	都市農山村交流実習 2	選択	原島幹典		講義・実習	2年通年	30
C2- 41	山村活性化事例研究 2	選択	嵯峨創平	非常勤講師	講義・実習	2年通年	30
C2- 42	農業科学・林業薬剤	選択	津田裕	非常勤講師	講義	2年前期	30
C2- 43	造園土木技術	選択	柳澤直	非常勤講師	実習	2年前期	30
C2- 44	パーマカルチャー実習 2 (応用編)	選択	萩原裕作	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	2年通年	30
	【地域における課題への取り組み】						210
C2- 45	野生動物管理演習	選択	原島幹典	川尻秀樹 / 非常勤講師	講義・実習	2年通年	30
C2- 46	里山プロジェクト実習	選択	柳澤直	津田裕 / 玉木一郎	実習	1年後期・ 2年前期	60
C2- 47	地域プロジェクト実習	選択	原島幹典		実習	1・2年通年	60
C2- 48	コミュニティデザイン総合演習	選択	嵯峨創平	非常勤講師	講義・実習	2年通年	60

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【みる】						150
C2- 49	フィールドワーク2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	60
C2- 50	自然学校・ビジターセンター2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	60
C2- 51	環境教育施設組織経営論2(応用編)	選択	萩原裕作	非常勤講師	講義・実習	2年通年	30
	【体験する】						60
C2- 52	自然体験プログラム実習2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	60
	【伝える】						180
C2- 53	インタープリテーション実習2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	60
C2- 54	自然体験活動指導実習2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	120
	【考える】						30
C2- 55	IPコースゼミ2(応用編)	選択	萩原裕作		講義	2年通年	30
	【企画する】						120
C2- 56	プログラムデザイン2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	120
	【総合技術】						150
C2- 57	バーマカルチャー実習2(応用編)	選択	萩原裕作	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	2年通年	30
C2- 58	森のようちえん実習2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	60
C2- 59	プレーパーク実習2(応用編)	選択	萩原裕作		実習	2年通年	60

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【計画系】						60
C2- 60	木造建築計画の応用	選択	廣田桂子	非常勤講師	実習	2年前期	30
C2- 61	バーマカルチャー実習2(応用編)	選択	萩原裕作	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	2年通年	30
	【木造建築病理学系】						120
C2- 62	木造建築病理学	選択	小原勝彦	吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 / 津田格 / 非常勤講師	講義	1・2年通年	60
C2- 63	木造建築病理学実習	選択	小原勝彦	吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 / 津田格	実習	1・2年通年	60
	【構造系】						120
C2- 64	木質構造設計の基本	選択	小原勝彦		講義・実習	2年前期	60
C2- 65	木質構造設計の応用	選択	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	2年後期	60
	【構法系】						30
C2- 66	木造建築の防火性能	選択	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	30
	【環境系】						30
C2- 67	環境科学概論	選択	柳澤直	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	2年後期	30
	【設計系】						150
C2- 68	木造建築の設計製図	選択	辻充孝		講義・実習	2年前期	30
C2- 69	木造建築の環境性能設計	選択	辻充孝		講義・実習	2年前期	30
C2- 70	建築設計製図・構造図	選択	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	2年通年	60
C2- 71	人間生活環境設計～木造のためのデザイン～	選択	廣田桂子	非常勤講師	実習	2年前期	30
	【木質材料系】						150
C2- 72	住まいの材料学	選択	吉野安里		講義・実習	2年後期	30
C2- 73	住まいの材料学実習	選択	小原勝彦	非常勤講師	実習	2年通年	30
C2- 74	木材乾燥	選択	吉野安里	非常勤講師	講義・実習	2年前期	30
C2- 75	木材強度と建築利用	選択	吉野安里		講義・実習	2年前期	30
C2- 76	製品流通	選択	吉野安里	非常勤講師	講義	2年後期	30
	【法規系】						15
C2- 77	木造建築法規	選択	辻充孝	小原勝彦	講義・実習	2年後期	15
	【総合デザイン系】						240
C2- 78	木造建築の総合デザイン演習	選択	辻充孝	小原勝彦 / 廣田桂子 / 吉野安里	講義・実習	1・2年通年	60
C2- 79	建築防災計画	選択	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	2年通年	60
C2- 80	木造建築構造の展示の実践	選択	小原勝彦	辻充孝	実習	1・2年通年	120

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【ゼミ】						270
C2- 81	ものづくりと暮らしゼミ	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	180
C2- 82	ものづくりと仕組みづくりゼミ	選択	和田賢治	松井勲尚 /久津輪雅 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	60
C2- 83	感性を問う	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	30
	【木工の基礎】						60
C2- 84	木工の材料学	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	60
	【木工の応用】						165
C2- 85	手工具の自作と使用	選択	久津輪雅	非常勤講師	実習	2年前期	30
C2- 86	木のおもちゃ	選択	松井勲尚	非常勤講師	講義・実習	2年前期	45
C2- 87	椅子の歴史と制作	選択	久津輪雅		講義・実習	2年前期	60
C2- 88	木材塗装の応用	選択	久津輪雅	非常勤講師	実習	2年前期	30
	【木育の応用】						60
C2- 89	木育講座の実践	選択	松井勲尚		実習	2年通年	60
	【地域材による商品開発】						210
C2- 90	商品化と教材化	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	60
C2- 91	地域材のクラフト開発2	選択	和田賢治		実習	1・2年通年	90
C2- 92	地域材の家具開発	選択	久津輪雅		講義・実習	2年後期	60
	【伝統に学ぶ】						45
C2- 93	伝統工芸の見学	選択	久津輪雅		講義・実習	1・2年通年	15
C2- 94	伝統工芸の体験 1	選択	久津輪雅	非常勤講師	実習	2年前期	15
C2- 95	伝統工芸の体験 2	選択	久津輪雅	非常勤講師	実習	2年後期	15

科 目		担当者(○主担当)					
森林文化論		○ 川尻秀樹 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	日本人の目で見えた森林文化、森林と人との関わりを生活文化や林業、木造建築、ものづくりなど、多方面の分野から紹介・検証し、今後の森との関わり方についての幅広い視点を身につける。						
概 要	森林文化アカデミーは自然を代表する「森」と、再生可能な「木」の活用を通して、自然の循環と一体となった持続可能な社会構築を目指している。古来日本人が築き上げた森林文化を振り返り、斬新な切り口で将来に繋がる新しい森林文化は何かを探る。						
項 目	1. 日本人はどのように森とつきあってきたのか。縄文時代や弥生時代、自然神道、仏教伝来と共に歩んだ日本人の思想の一部を振り返る。 2. 海外での森林文化にはどのようなものがあったのかドルイド教や神話の一端から探る。 3. 山村地域、山村づくりから見た森林文化について（ゲストスピーカー） 4. 林業から見た森林文化について（ゲストスピーカー） 5. 木造建築から見た森林文化（ゲストスピーカー） 6. 木工・ものづくりから見た森林文化（ゲストスピーカー） 7. 自然体験活動から見た森林文化（ゲストスピーカー）						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	出席とレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林から木材、暮らしへ2		○ 柳澤直 担当教員					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	2年次の開始に当たり、1年次に各講座で学んできた知識をもう一度つなぎ直し、森林の樹木がさまざまなプロセスを経て人の暮らしの道具や住まいになってゆく過程や、森林と人や地域のつながりを理解する。						
概 要	林業、山村・里山、森林環境教育、木育・木工、木造建築などの現場を訪ねながら、森林と人のつながりを総合的に理解する。また講座をこえて全学生が同じ対象や課題を見聞しながら、相互の特長や役割を再確認する。						
項 目	4月13日 郡上の製材所から始まり、岐阜市内の展示場での木造建築提案を確認する一日（木造建築） 4月14日 森林のバイオマス利用と地域の自然について考える一日。大垣市の里山学習林、瑞穂市の木質バイオマス発電施設など（山村づくり） 4月20日 山元の原木市場から製材への過程を訪ねる一日。高山市の県森連飛騨共販所の原木市場、飛騨高山森林組合木材流通センター、下呂市の金山チップセンターなど（林業再生） 5月13日 大手家具メーカー・カリモクの国産材家具づくり視察（ものづくり）						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林公共政策		○ 川尻秀樹 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	岐阜県の公共政策の中で、森林、林業、木材産業などに関わる項目について、県職員から最新の政策方針などについて学ぶ。						
概 要	岐阜県庁の林政課、森林研究所、県産材流通課、森林整備課、治山課、清流の国づくり推進課、生活技術研究所、地域産業課、観光課などから実施している行政項目や課題について、講義を受ける。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岐阜県の森林・林業施策、森林づくり基本条例 2. 森林研究所の役割と森林・林業に関する技術開発の現状 3. 森林環境税、里山林の整備、木育の推進、企業による森づくり 4. 県産材の生産と需要拡大への対策 5. 森林整備施策の方向性・進め方と補助金制度の概要 6. 林業の担い手の現状と課題、今後の人材育成の方向性 7. 森林の開発と保安林行政 8. 山地災害と治山事業 9. 岐阜県の地球温暖化対策 10. 自然保護・自然公園・鳥獣管理行政 11. 岐阜県の普及業務の考え方としくみ、普及員の役割 12. 生活技術研究所の役割、木材産業に関わる技術開発と技術支援 13. 伝統工芸など地場産業の現状と課題、それに対する県の施策 14. 市町村の森林・林業行政の役割と課題 15. 岐阜県山村地域への移住・定住政策 16. 岐阜県における新エネルギー政策 <p style="text-align: right;">のうち、14回を開催予定。</p>						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	出席とレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニティビジネス起業論 (実践編)		○ 嵯峨創平 杉本和也 / 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年通年	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	コミュニティビジネス起業論（基礎編）を修了した学生の中で、卒業後に起業を目指す学生のための実践編の授業。						
概 要	各人の事業計画を磨き上げることはもとより、起業を目指す者相互のネットワーク形成、幅広い情報源へのアクセス、先輩起業家の経験に学んでビジネスマインドや経営ノウハウを吸収できるプログラムを予定している。						
項 目	第1回 オリエンテーション合宿（4/17-18、1泊2日） ①科目オリエンテーションとゴール設定（事業計画プレゼン） ②事業計画の土台となるコンセプト固め ③先輩起業者の講話1（株式会社郡上割り箸 下駄事業部部長 諸橋有斗） ④ビジネスゲームで経営感覚をつかむ（愛知学院大学 鶴飼宏成） 第2回 わが国の起業動向と起業支援制度／マーケティング調査の方法 （5/11AM） （担当教員） 第3回 情報発信の重要性／先輩起業者の講話2（6/1AM） （株式会社うずまきデザイン/Jimdo Cafe 代表 野崎晃） 第4回 コミュニティビジネスの起業プロセス／中間チェック（6/30全日） （一般社団法人インク 予定／担当教員） 第5回 金融機関から見た事業計画の要点／収支計画の作成演習（10/6全日） （コミュニティユースバンクmomo代表理事 木村真樹） 第6回 事業計画ブラッシュアップ[課題クリニック]／プレゼン練習（11/2AM） （担当教員） 第7回 各人の事業計画プレゼン（12/8AM） （担当教員、外部審査員）						
テキスト 参考書	授業中に随時資料を配布する						
事前履修科目	コミュニティビジネス起業論（基礎編）						
評価方法	出席、提出物、プレゼン						
関連する資格							
注意事項	履修希望者はオリエンテーション合宿に参加すること（4月9日～10日に担当教員へ申し込むこと）。						

科 目		担当者(○主担当)					
ウッドプロジェクト		○ 嵯峨創平 廣田桂子 / 玉木一郎					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	これまでの森林文化もしくは、これから求められる森林利活用や木材利用のあり方など幅広く総合的に考える訓練を同時に行い、翔楓祭を目途に完成させる。						
概 要	講座の枠を超えて2年生全体で森や木に関わるテーマを設定して取り組むプロジェクト型の授業である。ゴールとなる表現や場所も自分達で決める。そのプロセスの中で、様々なサブテーマやスキルを学ぶことができる特色を持つ。						
項 目	<p>初回に、全体テーマを決めるためのワークショップを行う。 2回目以降は、全体テーマを推進するための役割分担やスケジュールを決めていく。 翔楓祭（11/14-15）を目途に成果を表現することを目指す（そのために時間割に示された日程は変更されることもある）。 技術的・資金的なサポートは担当教員が行う（詳細は相談のこと）。</p> <p>（例示的なテーマ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹ハウス ・森林文化を表す道具（杉玉、臼と杵、注連縄、木っ端仏など） 						
テキスト 参考書	参考書は授業の中で順次示す。						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート、プレゼンテーション						
関連する資格							
注意事項	メジャー、筆記用具、カメラ等を持参の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
コロキウム		○ 柳澤直 担当講座					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	必須
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	教員と学生間、ないしは学生相互間での意見交換や議論を図る場としてコロキウムがある。学生の活発な議論への参加が求められる。						
概 要	エンジニア科・クリエイター科、全学生が積極的に参加する活動を行う。学生が主体となって運営し、全員参加の取り組みになるよう、教員がコーディネートする。						
項 目	5/12 在校生と卒業生の森林文化ワークショップ 6/1 自力建設候補作品プレゼン 7/7 クリエーター科課題研究中間発表会 メンタルヘルス講習会 10/13 (未定) 11/24 (未定) 1/26 (未定)						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
国内研修		○ 津田格 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	<p>本科目は、アカデミーでの多岐にわたる学びの学習成果をふまえ、宿泊型実習として通常の授業では行くことのできない遠隔の県外地を訪れ、十分な授業時間の中で見学、体験し、学ぶことを目的とする。</p>						
概 要	<p>全学科の学生が参加して、国内における森林、林業、木材利用に関連する多様な取り組みや先進事例とともに視察、確認し、議論することで自身の専門的な学びを深め、かつ視野を広げる。研修先や内容は、アカデミーの各分野領域のテーマ、あるいは分野横断的なテーマにそって設定され、実施される。</p>						
項 目	<p>各研修の詳しい内容はその都度発表される。 必要に応じて、研修前の事前学習の時間が設定される。 2泊3日程度の研修を1回、予定している。</p> <p>(これまでの研修先)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県奥会津地方 (2014年度) ・ 岡山県西粟倉村森の学校～兵庫県篠山市ノオト (2013年度) ・ 京都府南丹市美山町京都大学芦生研究林、北山集落～比叡山 (2012年度) ・ 長野県安曇野シャンティクティ～国営アルプスあづみの公園 (2012年度) 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	担当教員による。						
関連する資格							
注意事項	<p>研修参加費等については、各自負担となるので、あらかじめ参加予定者は情報入手すること。</p>						

科 目		担当者(○主担当)					
インターンシップ		○ 科長 指導教員					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	学生が課題研究の内容に参考となる企業などでの就業体験を行うことで、課題研究の内容を深める、もしくは将来の身の振り方について方向付けを行うための機会とし、より自分に適した職種を探る契機とするものである。						
概 要	希望学生が特定のインターンシップ先に集中し、受け入れ先での対応が不可能な場合は再度調整してインターンシップ先を変更決定することもある。内容については、受け入れ先に一任するため、希望者が事前にインターンシップ先に連絡を取り、業務内容に併せた持参品などを用意することとする。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前相談(各科長、課題研究指導教員)【随時】 2. インターンシップ先の決定【2ヶ月前まで】 3. 承認【2ヶ月前まで】 4. 受け入れ依頼文書(事務局)、学生プロフィール(学生)の送付、欠席届の提出【1ヶ月前まで】 5. インターンシップ実施の内容(課題研究指導教員) 6. インターンシップ実施 作業日報(学生) 7. お礼文書を事務局に提出【インターンシップ後1週間以内】 8. 作業日報とあわせて、インターンシップで得られた成果についての作業報告書を科長及び指導教員に提出【インターンシップ後1週間以内】 9. 時間認定 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	作業日報、作業報告書						
関連する資格							
注意事項	実施時期がやむなく授業時間と重なり、欠席届を提出した場合には、成績評価時に考慮されることもある。インターンシップ保険に加入すること。時間認定が2月中旬となることを念頭にインターンシップ実施期間を設定すること。						

科 目		担当者(○主担当)					
課題研究		○ 科長 指導教員					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	720	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自分の専門分野において、問題意識に沿った適切な課題を定め、その課題解決につながる調査・分析を実施する。						
概 要	課題の洗い出しから課題解決までの一連の流れを実践し、説得力あるプレゼン能力や論文作成能力を身に付ける。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定にあたり <ul style="list-style-type: none"> (1) 取り組みたい課題を設定し、文献や雑誌、インターネットなどで情報を集める。 (2) 指導教員（主査、副査）と相談し、テーマを設定する。 2. 課題設定後、指導教員と充分相談しながら、以下の取り組みをする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 課題に関する資料や情報を収集し、整理する。 (2) 情報を基に、より具体的な取り組み内容を検討する。 (3) 具体的な内容決定後、研究計画（内容・スケジュール）を立てる。 3. 研究計画に沿って、調査・研究に取り組む。 4. 研究結果のとりまとめ <ul style="list-style-type: none"> (1) 研究内容をとりまとめ、指導教員と発表内容やプレゼン手法を検討する。 (2) コロキウム課題研究中間報告会（7月）と課題研究ゼミ（7、9月）においてプレゼン発表、ふりかえりを行い、必要に応じて研究計画を修正する。11月には中間審査、1月中に内審査を行う。 (3) 論文は見やすく、簡潔にまとめる（提出論文は図書室に永久保存）。 5. 課題研究公表会（2月）において発表し、評価を受ける。 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	日頃の取り組み姿勢、論文、発表						
関連する資格							
注意事項	積極的・自主的に取り組むこと。						

科 目		担当者(○主担当)					
プロジェクト		○ 柳澤直 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	90	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	アカデミーが目指す人材を育成するために、地域で生じている諸問題の解決を題材に取り上げて、より実践的な調査や研究、設計、製作、セミナー、視察研修などを通年で実施する。						
概 要	これまでに、森林整備活動や、木質バイオマスエネルギーの利用検討、森林に関するビジネス、里山の管理と生物相の調査、木造建築の設計・管理・監理、住環境調査、改築、木育プログラムの規格及び実施、ものづくり商品化プロジェクト、ものづくり用材のための広葉樹林間伐などが実施された。						
項 目	内容については担当教員に確認のこと。						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項	単位認定には累積時間で90時間以上が必要						

科 目		担当者(○主担当)					
林業経営		○ 杉本和也					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業経営の形は様々であるが、基本となる視点は共通で「経営の戦略」「財務」「生産システム」「営業」「組織運営」が重要になってくる。これらの視点で経営を捉えられるよう、基礎知識の習得や経営への理解を深める。						
概 要	「経営の戦略」「財務」「生産システム」「営業」「組織運営」「企画開発」各視点で林業経営を捉えるための基礎知識の説明を行いながら、最終的に林業経営の現状を上記の視点で整理したレポートを作成する。						
項 目	1. 林業における経営 林業経営 (forestry management) と森林管理 (forest management) の違い 2. 会計から見た林業経営 費用項目について、PL, BS, CSの見方、原価管理の手法 3. 運営管理 在庫管理, 工程管理 4. 経営戦略, 営業戦略 経営戦略の立案方法 5. 組織運営, 経営法務 組織運営のあり方, 経営の実務に必要な法律および税制等の制度 6. 企画開発 林業における企画開発のあり方 最終的に林業経営の現状を「経営の戦略」「財務」「生産システム」「営業」「組織運営」「企画開発」の視点で整理したレポートを作成する。場合によっては、実際の事業体へのヒアリングを行う。						
テキスト参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
市場経済の中の林業		○ 杉本和也 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業経営を考えるには、森林資源育成・公益的機能の発揮と同時に地域経済や地域外の経済との関係を理解しなければならない。この授業では様々な事例を通して、林業の方向性について理解する。						
概 要	森林資産の育成と市場経済のつながりを考え、森林所有者・素材生産事業体・製材加工業といった各プレイヤーが置かれている現状をミクロ・マクロな視点から捉えた上で、どういう経営戦略を立てるべきか考える。授業はテーマに沿ったケーススタディ・ディスカッションを行いながら、進行する。						
項 目	<p>※下記テーマ(例)は全体の一部です</p> <p>1～2 森林所有者の立場から森林育成・木材生産・林業経営を考える テーマ(例)：経済・経営的な側面から見た森林・林業の特性とは？ (例)：日本は外材を輸入すべきだったか？ (例)：受講者それぞれの「林業」の定義、対象はどこか？</p> <p>3～4 市場経済の中での戦略 テーマ(例)：林業はプロダクトアウト/マーケットインのいずれであるべきか？ (例)：林業における垂直統合と水平連携の意味とメリット/デメリットとは？ (例)：森林所有者・森林組合・素材生産事業体・木材産業・地域経済の経済・経営的バランスをどのように捉えるか？</p> <p>5～6 戦略の中での組織づくり、システム構築 テーマ(例)：林業に求められるのは、ゼネラリスト人材かスペシャリスト人材か？ (例)：林業従事者のモチベーションを保つためには、何が必要か？ (例)：組織形態(個人森林所有者・森林所有者会社・素材生産事業体・森林組合等)は林業活動にどのように影響を与えるか？</p> <p>7～8 これからの林業を考える テーマ(例)：林業は国際分業・地域分業をすべきか？ (例)：再びスギ・ヒノキを更新し経済・経営的バランスを保つことは可能か？</p>						
テキスト参考書	①森林の江戸学(2012) ②伴 利人日本の国宝を守る(2014) ③資本主義の終焉と歴史の危機(2014) ④社会的共通資本(2000)						
事前履修科目							
評価方法	出席、講義への参加点、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林政策・森林計画		○ 池戸秀隆					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業に関する法規や制度について知るとともに、日本国あるいは岐阜県が森林や林業のあり方をどのように考えているかを理解する。						
概 要	森林や林業に関する基本的な法規、現在の森林製作やその中における各種の制度について学ぶ。また、国や都道府県・市町村で林野行政を担う組織の概略を知り、それぞれが抱える問題点などについても考察する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森林法と森林・林業基本法 2. 保安林制度 3. 森林計画制度（全国森林計画、地域森林計画、市町村森林整備計画） 4. 森林経営計画 5. 補助金と直接支払制度 6. 普及員とプランナー（林業普及指導員、森林総合管理士、施業プランナー） 7. 国有林とその組織 8. 都道府県や市町村の組織 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	試験またはレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林評価・収穫調査		○ 池戸秀隆 川尻秀樹 / 横井秀一 / 杉本和也					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	この科目では、実際に施業を行う林分を対象に、見積書や作業指示書を作成し、実際の現場のプランニングに必要なスキルを身につける。						
概 要	演習林において、プロット調査を行い、見積書、作業指示書などを作成する。また収穫後に見積書や作業指示書の再検討を行う。						
項 目	<p>0. 説明 森林評価・収穫調査の必要性。実際の事業体におけるプランニング手法の説明。</p> <p>1. 森林評価, 収穫調査 周囲測量, プロット調査を行い, 施業区域の収穫量を調査する。</p> <p>2. 見積書の作成, 作業指示書の作成 収穫量の調査結果から, 原木の径級や品質の見積もりを行い, 売上を予測する。また立地条件や収穫量から, 導入する作業システムの検討を行い, 人工数を予測する。さらに予測した人工数を元に作業指示書を作成する。</p> <p>3. 再評価 実際に収穫が終わった後で, 見積書や作業指示書の再検討を行う</p>						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林経営計画実習		○ 横井秀一 川尻秀樹 / 杉本和也					
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	森林の保続を図り、かつ、持続的な林業経営を実現するための制度である「森林経営計画」の概要を理解し、計画の立案方法を習得する。						
概 要	これまでの学習成果を駆使して、学生が各自で、演習林をフィールドに森林経営計画を作成する。						
項 目	1. 森林経営計画の概要 2. 森林経営計画の実例 3. 計画対象森林の現況把握 4. 計画対象森林の調査 5. 計画の作成 6. 計画の発表・評価						
テキスト 参考書							
事前履修科目	林業再生講座の各専門科目						
評価方法	授業への取り組み姿勢、計画発表の内容						
関連する資格							
注意事項	現地調査時のドレスコード：1実習（一般）						

科 目		担当者(○主担当)					
木材の販売戦略		○ 川尻秀樹 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山側（上流）の者が、販売先（下流）の木材流通現場を充分理解するためには何をすべきか。、木材関連産業の実態およびその課題、流通の仕組みを学ぶ。						
概 要	木材の販売戦略事例の分析から、流通の現況・仕組みを把握し、新たな流通経路を探ることで、販売戦略に関する企画力を身につけるものです。これまでのプロダクト・アウトの発想からマーケットインへの転換のために何をすべきかを探る。						
項 目	<p>1～4 木材流通の現状と課題 木材流通の基礎となる人工林の蓄積量や素材生産量、原木市場や直送について学び、A材の製材について製材・乾燥・製品流通から、現在抱える課題を探る。 また、B材やC材の用途としての合板や集成材、チップ、ペレットについて深く掘り下げる。</p> <p>5～6 新たな木材流通・販売戦略を考える 木材の直送システムや用途開発、大型工場の誘致などさまざまな問題を考えながら、最終課題である「新たな販売戦力のテーマ」を考える。</p> <p>7～8 森林資源の見方、現場での生産性向上の取り組み事例を実習する。 林地での用途別仕分け、機械造材、中間土場、木材搬送の現実を見る。</p> <p>9～12 岐阜県の取り組み事例から、共販所や木材ネットワークセンターなどの取り組み事例などから考える。 県森林組合連合会の共販所で原木市場の役割などを見聞する。また岐阜木材ネットワークセンターによるシステム販売などについて、現状を見聞する。 その他、民間の木材取引（東海木材相互市場サテライト美並）のトレーサビリティ、製材工場や乾燥施設見学による現状把握。</p> <p>13～14 新たな流通販売戦略・新たな地域材住宅戦略など今後の販売戦略に関する企画力をつけるワークショップ。</p>						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	ワークショップでの提案内容						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
国内の先進林業事例		○ 川尻秀樹 横井秀一 / 杉本和也 / 池戸秀隆					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業は環境づくりにも貢献できる産業である反面、環境を悪化させやすい産業でもある。その林業の現場でどのような変革が起き、どのような方向に進みつつあるのか、先進的な取組事例に学ぶ。						
概 要	長期にわたって停滞してきた日本の林業、そうした中でも独自の理論、安全管理、生産管理、技術革新を駆使して、効率的な林業生産をしている企業も多い。そうした先進的な取組をしている林業地や事業体などの現実から、自分たちが向かうべき方向性を探る。						
項 目	<p>変動する林業業界の中で、学生が興味を持つ林業現場や教員が学生に伝えたい技術を現場に出かけて共有し、その中から問題を見つけ出して、今後の方向性を探るのが主目的となっている。</p> <p>基本は公用車による移動としており、遠方の場合は宿泊の可能性もある。全国林業機械展で 最新の林業機械や林業技術を学んだり、今話題的林業を実践されている事業体に勉強にいくことも可能。</p> <p>1～4 参考となる林業事例の比較検討、岐阜県の林業地・事業体の現地調査</p> <p>5～12 県外の林業地・事業体・全国林業機械展視察</p> <p>13～14 比較検討・分析・まとめ</p>						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	出席とレポート、一部ブログ作成						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
樹木学指導実習		○ 横井秀一					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	樹木について人に教えることで、自らの樹木同定能力や樹木の形態・生態についての知識を確認するとともに、人への教え方を身に付ける。						
概 要	1年生科目「樹木学実習」において、講師役を務める。自らの知見（自分が学んだ知識や自分で見つけたポイント）を総動員し、初学者が十分な知見を得られるように指導する。要所要所は、教員が補助（誤りの修正、追加の解説）する。						
項 目	1. 着葉期実習 主要樹種について、基礎的用語、葉による同定方法、実生の同定方法、更新サイト、シュートの伸長様式、樹形と光獲得戦略などについて解説する。 2. 落葉期実習 落葉樹については、樹形・枝ぶりによる同定方法、樹皮による同定方法、冬芽による同定方法などを解説する。 常緑樹については、着葉期実習に準拠する。						
テキスト参考書	参考書：「検索入門 針葉樹」「検索入門 樹木①②／冬の樹木」「樹に咲く花」「葉でわかる樹木」「花実でわかる樹木」「冬芽でわかる落葉樹」						
事前履修科目	樹木・木材同定実習、樹木学実習						
評価方法	試験（自身の同定能力、指導効果）および指導態度						
関連する資格							
注意事項	野外実習時のドレスコート：1実習（一般）						

科 目		担当者(○主担当)					
植物同定実習		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	樹木を中心に草本も含めた日本の野生植物について、林業地の自然環境の理解および中山間地での生物資源の把握に活かすことができるよう、森林や人里、里山に生育する様々な植物を同定できる能力を身につけることを目的とする。						
概 要	東濃・西濃・飛騨地域等の県内各所の中山間地域にて樹木・草本の観察と標本の採集を行い、その後腊葉標本の作製を行うと同時に、植物系統分類地理学の基礎知識も復習し、同定技術の向上を目指す。フィールドは暖温帯域、中間温帯域、温帯域、日本海型気候の地域など植生帯の違いを意識して設定する。						
項 目	1. 植物の同定に関する系統分類学の基礎講座・植物地理学について 2. 植物の形態を中心とした分類形質についての実習 3. 植物標本の作製技術の習得 4. 中山間地での身近な樹木等の採集と標本採集・同定実習（岐阜西濃地域） 5. 中山間地での身近な樹木等の採集と標本採集・同定実習（岐阜飛騨地域） 6. 中山間地での身近な樹木等の採集と標本採集・同定実習（岐阜東濃地域）						
テキスト 参考書	山溪ハンディ図鑑14 樹木の葉（山と渓谷社） 葉でわかる樹木（信濃毎日新聞社）						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート、試験など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林施業演習		○ 横井秀一					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	<p>最適な森林施業や適切な作業を提案できるようになるため、提案現場の見学・観察や演習を通して、森林の状態を観察する視点や森林施業を評価する視点を養うことを目的とする。</p>						
概 要	<p>様々な施業が行われた森林や施業実施中の現場を見学する。また、間伐計画の立案や計画に合わせた間伐木の選木などの演習を行う。これらを通して、森林の見方や施業の考え方・あり方を学ぶ。</p>						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針葉樹人工林施業（林業経営の考え方、施業の実際、施業の工夫、施業の評価） 2. 針葉樹天然林施業（針葉樹天然林施業の歴史的背景、施業の実際、施業の工夫、施業の評価） 3. 広葉樹林施業（林業経営上の位置づけ、施業の実際、施業の工夫、施業の評価） 4. 間伐の計画と選木の実践（林分現況の把握、生産目標・目標林型の設定、間伐計画の立案、選木、成長の将来予測と間伐計画の評価） 						
テキスト 参考書							
事前履修科目	造林の基礎、多様な森林施業、樹木学実習、森林調査法						
評価方法	レポートおよび授業中の態度（見学・体験・議論に望む姿勢）						
関連する資格							
注意事項	<p>現地見学時のドレスコード：1実習（一般） 間伐実習（伐倒作業）時のドレスコード：2実習（伐採） 見学予定先の都合などで、内容が変更される場合がある。</p>						

科 目		担当者(○主担当)					
木材生産システムの応用		○ 杉本和也 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	現場の事例見学や現場のリーダー・経営者からのヒアリングを通じて、生産システムへの総合的な理解を深める。						
概 要	作業システムや林道・作業道の観察を通して、各生産システムのメリット・デメリットを理解する。また各現場での経済的な合理性だけでなく、森づくりへの配慮や川下への供給体制に対する検討結果についても、現場のリーダーや経営者から話を聞くことで、生産システムの総合的な理解を深める。						
項 目	<p>主に県内や県外の素材生産事業者（森林組合，民間事業者）の素材生産現場に行き、生産システムの観察や、現場のリーダーや経営者からの説明を聞く。</p> <p>予定している見学内容としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両系での素材生産システム見学 作業道を開設し、グラップルやスイングヤーダなど車両系林業機械による搬出作業を行っている現場 ・架線系での素材生産システム見学 タワーヤーダや集材機など、架線系林業機械による搬出作業を行っている現場 ・サプライチェーンの中での素材生産作業 川下への直送体制や、注文販売に対する対応を行っている搬出現場 						
テキスト参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
伐採・搬出指導実習		○ 杉本和也					
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	経営計画の立案や現場の生産管理を行うにあたり、現場技術者に求められる技術水準や現状の技術レベルについて把握することは重要である。実際に作業を行うことで、伐採搬出技術への理解を深める。						
概 要	エンジニア科の伐採・搬出系の実習（林業架線等）に入り実際に作業を体験することで、伐採・搬出系の技術への理解を深める。また現場技術者の安全管理についても学ぶ。						
項 目	<p>エンジニア科の伐採・搬出系（主に林業架線）の実習において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習道具の手配 ・ 現場の人員配置の検討 ・ 作業技術の習得 ・ 安全への気配り <p>を行うことで、現場の技術への理解を深める。</p>						
テキスト 参考書							
事前履修科目	林業架線						
評価方法	出席、レポート						
関連する資格	林業架線作業講習修了証書 機械集材装置運転特別教育修了証						
注意事項	◆ドレスコード 指導中にチェーンソーを用いるため、チェーンソー用のドレスコードで臨むこと						

科 目		担当者(○主担当)					
高性能林業機械操作基礎		○ 杉本和也 川尻秀樹 / 池戸秀隆					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input checked="" type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業・木材生産の現場、高性能林業機械の操作・運転等に必要な産業機械の概要、構造、メンテナンスの基礎及び運転操作の技術を体験することで、車両系・架線系の両作業システムへの理解を深める。						
概 要	林業機械の操作・運転等に必要な機械の概要、構造、メンテナンスの基礎及び運転操作の技術を体験する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高性能林業機械（車両系）の概要（講義） 2. 車両系建設機械（整地等）及びハーベスタ等の高性能林業機械の構造とメンテナンスの基礎及び操作体験（実習・中津川市・民間施設） 3. 高性能林業機械（架線系）の設置・撤去 4. 高性能林業機械（架線系）を用いた集材 5. 架線系林業機械の構造とメンテナンス 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	長野林業大学校との交流事業						

科 目		担当者(○主担当)					
林業機械の操作		○ 池戸秀隆 杉本和也 / 川尻秀樹					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input checked="" type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	2013年12月から「車両系林業機械」を使う業務(労働)に従事する方は、所定の特別教育を修了しなければならないこととされ、その特別教育を実施することを目的とする。						
概 要	「車両系林業機械」と呼ばれる機械は、①走行集材機械(フォワーダー、集材車、集材用トラクター)、②伐木等機械(プロセッサ、ハーベスタ、フェラーバンチャー、グラップルソー、集積用グラップル)、③簡易架線集材装置(スイングヤーダー、タワーヤーダー、木寄せウィンチ)						
項 目	1. 車両系木材伐出機械の運転の業務特別教育 1. 1 走行集材機械に関する知識、走行集材機械の種類・用途、走行集材機械の走行及び作業に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識 1. 2 原動機・動力伝達機構・走行装置・操縦装置・制動装置・作業装置・油圧装置・電気装置・付属装置の構造・取り扱い方法 1. 3 走行集材機械の作業に関する知識 1. 4 走行集材機械による一般的作業の方法 1. 5 走行集材機械の運転に必要な一般的事項に関する知識 1. 6 走行集材機械の運転に必要な力学、電気に関する基礎知識、ワイヤロープの種類・取り扱い方法 1. 7 関係法令・安衛則中の関係事項 1. 8 実技：走行集材機械の走行の操作、基本操作、定められたコースによる基本走行および応用走行 1. 9 走行集材機械の作業のための装置の操作、基本操作、定められた方法による原木の運搬、積み込み・荷降ろし作業の動作・操作(グラップル搭載フォワーダーの場合)						
テキスト参考書	法定テキスト						
事前履修科目							
評価方法	実習とペーパーテスト						
関連する資格	車両系林業機械の特別教育						
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
有用植物実習		○ 津田格 柳澤直 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林産物のうち、きのこ、山菜、薬用植物、木の実、精油、樹皮、特用樹、薪炭などは特用林産物と呼ばれる。特用林産物は地域の風土と結びついた物が多く、それらについて知ることは地域の文化を理解する上で重要である。						
概 要	本科目では特用林産物のうち、主に山菜と薬用植物の利用方法、同定を学ぶ。いくつかの種については、その増産技術を習得する						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山菜、薬用植物とは 2. 山菜、薬用植物の採集と同定 3. 山菜の調理法 4. 山菜、薬用植物の増産技術（根ざし法） 5. 山菜、薬用植物の増産技術（挿し木法） 6. 薬用植物の利用見学（伊吹山） 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
農薬科学・林業薬剤		○ 津田格 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	農薬・林業薬剤は、近代的集約農林業体系において不可欠なものとなっている。本科目では農林業上、重要な病虫害について概観するとともに、農薬・林業薬剤に関する知識を得ることを目的とする。						
概 要	農薬の種類、生理作用、用途、安全性評価、樹木や林業で使用されている農薬・林業薬剤を中心に病虫害と防除方法について概説する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林業薬剤・農薬とは何か 2. 林業薬剤・農薬の定義 3. 農薬の生理作用と作用機構 4. 農薬の代謝と環境中挙動 5. 農薬の毒性、安全性の評価 6. マツノザイセンチュウの被害と防除方法 7. 森林病虫害の防除方法 8. 樹木保護の方法・新展開 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート等						
関連する資格	樹木医補						
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
造園土木技術		○ 柳澤直 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	樹木の生態や生理に関する知識を有し、樹木の保護を体系的・総合的に判断できる専門技術者を育成するための、造園樹木に関する基礎知識の習得と、実地での基礎的な造園土木技術の習得を本実習の目的とする。						
概 要	本実習では、造園業で必要とされる技術とその考え方について講義を受けたのち、造園で使われる基本的技術を実際に屋外での作業により体験する。また、樹木の診断・保護対策・保護制度等について樹木医から実例を交えながら講義を受け、公園の植栽現場にて樹木診断に関する実習を受講する。						
項 目	1. 樹木の生理・生態 2. 樹木の構造と機能 3. 大気汚染害・気象害の診断と対策 4. 土壌診断 5. 樹木の保護制度 6. 総合診断・診断書の作成						
テキスト参考書	配布資料および 「最新・樹木医の手引き」 (日本緑化センター)						
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木材生産のための木材知識		○ 吉野安里					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	顧客目線の育林・素材生産を展開するために、市場や顧客のニーズを把握することが重要。そのため、林業に携わる者が知っておくべき木材に関する知識を習得することを目的とする。						
概 要	主に木造建築物に供される木材について、木材乾燥と木材強度を中心に、その性質を学ぶ。また、市場・顧客の要望に応えた木材生産を展開するための方策について考える。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木材中の水分と含水率 2. 木材の乾燥（天然乾燥・人工乾燥・ドラインセット・乾燥スケジュール） 3. 木材の強度（曲げ強度・圧縮強度・引張り強度・剪断強度） 4. 木材の強度試験 5. 木材のグレーディングとヤング係数 6. 立木でのヤング係数の推定 7. 木材の異方性（収縮率・強度） 8. 木材の耐候性 9. 木材の腐朽 10. 材種と製材品規格・品等区分 11. 合板と集成材 12. 造林木の品種と材質 13. 木材利用分野からの原木に対する要求 14. 供給側・需要側の双方が満足するための工夫や取り組み 						
テキスト参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	原木流通 樹種と材質						
評価方法	出席						
関連する資格	なし						
注意事項	見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参						

科 目		担当者(○主担当)					
車両系建設機械・不整地運搬技能		○ 川尻秀樹					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input checked="" type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業の効率化を目指して路網整備と高性能林業機械導入が進められているため、それにかかる機械操作の資格取得を目的とする。						
概 要	林業現場で造材、運搬で使用する車両系建設機械およびその運行に掛かる不整地運搬車の運転技能と基本操作について技術習得する。						
項 目	1. 車両系建設機械（整地等）運転技能講習 1. 1 走行に関する装置の構造及び取り扱いの方法に関する知識 1. 2 作業に関する装置の構造、取り扱いの方法に関する知識 1. 3 運転に必要な一般的な事項に関する知識、関係法令 1. 4 走行の操作、作業のための装置操作 2. 不整地運搬車運転技能講習 2. 1 不整地運搬車の走行に関する装置の構造及び取り扱いの方法に関する知識 2. 2 不整地運搬車の荷の運搬に関する知識 2. 3 不整地運搬車の荷の運転に必要な力学に関する知識、関係法令 2. 4 不整地運搬車の走行の操作、不整地運搬車の荷の運搬						
テキスト 参考書	法定テキスト						
事前履修科目	大型特殊免許の取得						
評価方法	資格取得						
関連する資格	車両系建設機械（整地等）運転技能、不整地運搬車運転技能講習修了証						
注意事項	事前の大型特殊免許の取得が必須						

科 目		担当者(○主担当)					
フォークリフト運転技能		○ 川尻秀樹					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	原木市場や製材所などでの丸太原木の移動、製材品の運搬・積み込み作業にはフォークリフトが必要不可欠であるため、その技能講習資格を取得する。						
概 要	このフォークリフト運転技能講習受講者は事前に、大型特殊免許の取得を条件としており、その上でフォークリフトの運転と基礎的な操作の技術習得を目指す。						
項 目	1. フォークリフトの原動機・動力伝達装置・走行装置・舵取り装置・制動装置および走行に関する付属装置の構造並びにこれらの取り扱い方法 2. フォークリフトの荷役装置・油圧装置（安全弁を含む）・ヘッドガード・バックレストおよび荷役に関する付属装置の構造と取り扱い方法 3. 力の合成・分解、力の釣り合い、モーメント、重量、重心及び物の安定 4. 速度及び加速度、果汁応力、材料の強さ 5. 基本走行及び応用走行 6. 基本操作（フォークの抜き差し） 7. 荷の配列及び積み重ね						
テキスト参考書	法定テキスト						
事前履修科目	大型特殊免許の取得「						
評価方法	資格取得						
関連する資格	フォークリフト運転技能講習修了証						
注意事項	受講条件は大型特殊免許の事前取得、講習にかかる経費は各自負担、別に資格取得した場合は、その証明を持参すれば別途単位認定する。						

科 目		担当者(○主担当)					
里山を考える		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	里山を利用し、持続可能な社会を形成するために必要な最新の知見を幅広い分野で吸収するために文献の講読を行うことを目的とする。						
概 要	持続可能な社会の実現に向けて、里山は人と自然の理想的な関わり合い方の一例として注目を集めている。しかし、現実の里山は放棄され利用が進んでいない。本授業ではセミナー形式で、里山の自然や新しい利用に関する文献を幅広く扱い、里山への理解を深め、問題の解決につながるような議論を深める。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 里山の自然環境に関する文献の講読 2. 里山の利用に関する文献の講読 3. 持続可能な社会の形成に関する文献の講読 4. 里山の文化的価値に関する民俗学的・社会学的な文献の講読 5. その他里山や持続可能な社会に関する文献の講読 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
山村づくりゼミ2		○ 原島幹典 ／ 嵯峨創平 ／ 柳澤直 ／ 津田格 ／ 玉木一郎					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	学生と教員が一堂に会し、学生の報告をもとに専門分野を横断した議論を行うことで、将来設計に向けた考え方を広げ、課題研究計画の表現ができるようにする。						
概 要	選択テーマに即した報告、議論、調査、演習等						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題研究テーマとその背景や目的について発表する 2. 課題研究中間発表会に向けたプレゼン 3. 課題研究内審査発表会に向けたプレゼン 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、指定された場での発表						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
地域生活実習2 (実践)		○ 原島幹典 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山村地域で暮らすために必要となる「しごと」を、地域の方に習いながら体験的に理解し、持続可能な地域社会を支えてきた、生活技術の基礎と田舎暮らしの作法を学び、それを日常生活に、ひいては社会に役立てる方法を考える。						
概 要	山村地域で暮らすために必要となる「しごと」を、地域の方に習いながら体験的に理解し、持続可能な地域社会を支えてきた、生活技術の基礎と田舎暮らしの作法を学び、それらを伝える方法を考える。						
項 目	田起こし、田植え、茶畑管理、畔の草刈り、道普請、棚田の管理、薪の生産、ワサビ田管理、稲刈り取り、雪はき、雪下ろし、他。						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項	見学（山林）（コードNo.5）						

科 目		担当者(○主担当)					
植物同定実習		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	樹木を中心に草本も含めた日本の野生植物について、林業地の自然環境の理解および中山間地での生物資源の把握に活かすことができるよう、森林や人里、里山に生育する様々な植物を同定できる能力を身につけることを目的とする。						
概 要	東濃・西濃・飛騨地域等の県内各所の中山間地域にて樹木・草本の観察と標本の採集を行い、その後腊葉標本の作製を行うと同時に、植物系統分類地理学の基礎知識も復習し、同定技術の向上を目指す。フィールドは暖温帯域、中間温帯域、温帯域、日本海型気候の地域など植生帯の違いを意識して設定する。						
項 目	1. 植物の同定に関する系統分類学の基礎講座・植物地理学について 2. 植物の形態を中心とした分類形質についての実習 3. 植物標本の作製技術の習得 4. 中山間地での身近な樹木等の採集と標本採集・同定実習（岐阜西濃地域） 5. 中山間地での身近な樹木等の採集と標本採集・同定実習（岐阜飛騨地域） 6. 中山間地での身近な樹木等の採集と標本採集・同定実習（岐阜東濃地域）						
テキスト参考書	山溪ハンディ図鑑14 樹木の葉（山と渓谷社） 葉でわかる樹木（信濃毎日新聞社）						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート、試験など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
林産物実習 (春夏編)		○ 津田 格					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林産物のうち、きのこ、山菜、薬用植物、木の実、精油、樹皮、特用樹、薪炭などは特用林産物と呼ばれる。特用林産物は地域の風土と結びついた物が多く、それらについて知ることはその地域の文化を理解する上で重要である。						
概 要	木材腐朽性きのこの増産技術、利用について一年後期に引き続いて学ぶ。また初夏に発生するきのこの同定実習も行う。それ以外の特用林産物についても触れる。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. マイタケ原木栽培技術（ほだ木埋設） 2. 初夏に発生する野生きのこの採集と同定（コナラ、アカマツ林） 3. マイタケの原木栽培技術（収穫、計量） 4. きのこと以外の特用林産物の生産技術 <p>内容、時間についてはきのこの発生状況等に応じて変更する可能性がある。</p>						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
有用植物実習		○ 津田格 柳澤直 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林産物のうち、きのこ、山菜、薬用植物、木の実、精油、樹皮、特用樹、薪炭などは特用林産物と呼ばれる。特用林産物は地域の風土と結びついた物が多く、それらについて知ることは地域の文化を理解する上で重要である。						
概 要	本科目では特用林産物のうち、主に山菜と薬用植物の利用方法、同定を学ぶ。いくつかの種については、その増産技術を習得する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山菜、薬用植物とは 2. 山菜、薬用植物の採集と同定 3. 山菜の調理法 4. 山菜、薬用植物の増産技術（根ざし法） 5. 山菜、薬用植物の増産技術（挿し木法） 6. 薬用植物の利用見学（伊吹山） 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
山村の自然環境		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	近年まで里山利用の行われていた里山林・水田・茅場等、人との関わりのなかで育まれてきた豊かな自然が残されている地域を訪れ、その特性と生物相を理解し、伝え、保全するための基礎的な知見を得ることを目的とする。						
概 要	本実習では、里山の主要生態系である雑木林・草地・耕地（水田および畑）に着目し、それぞれ絶滅危惧種を含む多くの種が生育する現場を踏査し、出現する生物種を記録する。そのうえで生育場所の環境特性と人の手入れとの関わりについて学習する。また、絶滅危惧種の保全の現場も見学する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雑木林の自然（飛騨地域等で春植物の残っている里山林を調査・見学する） 2. 草地の自然（東濃地域等で継続して管理されている草地を調査・見学する） 3. 水田の自然（中池見湿地等の放棄水田の生物相の保全活動を見学する） 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
文化的景観論		○ 嵯峨創平					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	文化的景観とは自然と人為の相互作用によって歴史的に形成された景観とそれを支える仕組みを指す。この概念を広く捉え直しながら、遺産・美意識・地域共同体などの新しい可能性について学ぶ。						
概 要	世界遺産や文化財保護法で扱われる文化的景観の概念を押えた上で、法規の運用実態や保全活用の課題を知る。文化財保護法で扱われない地域の身近な景観を守る取り組みにも目配りし、そうした実態を岐阜県や隣県の現場を歩きながら考えていく。						
項 目	○文化的景観の基礎的理解（概念、関連法規、関連用語など） ○文化的景観の保全と地域づくりの関わり ○文化的景観フィールドワーク1（代表的な文化的景観） ○文化的景観フィールドワーク2（山村集落景観の保全） ○文化的景観の保全活用の方策と山村地域の将来像について						
テキスト参考書	随時プリントを配布。参考書：金田昭裕(2012)「文化的景観－生活となりわいの物語」ほか						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポートなど						
関連する資格							
注意事項	一部をエコミュージアム概論（1年生科目）と合同で実施する。						

科 目		担当者(○主担当)					
環境科学概論		○ 柳澤直 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	複雑化する環境問題に対応するため、環境評価に関する法律・制度を学び、開発が自然環境に与える影響や、人間環境への影響について、事例を講義と現地での実習によって学習し、それぞれの分野の学びに活かすことを目的とする。						
概 要	人間活動が環境に与える影響には、人間の暮らす環境に関する問題と、自然環境に関する問題があるが、現代ではその2者は互いに関連して問題を複雑化させている。本授業では、①環境評価に関する法律・制度を学び、②開発が自然環境に与える影響や、人間環境へ配慮した開発の実例について学習する。						
項 目	1. 環境問題とは 2. 戦略的環境評価について 3. 人間健康リスクアセスメントについて 4. 環境健康影響アセスメントについて 5. 開発と自然の利用・保全について 6. 環境アセスメントの実際について 7. 長良川河口堰の建設について 8. 藤前干潟について 9. 大阪鶴見緑地国連施設計画について 10. 地球温暖化・気候変動について						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
都市農山村交流実習2		○ 原島幹典					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	過疎高齢化に悩む山間地域の活性化策として取り組まれている、都市住民との交流活動について、その現状と課題を認識し、今後の展望についてそれぞれの考えを持ち、具体的な提案をできるようになる。						
概 要	エコツアー・農林業体験・農家民泊・棚田オーナー制度・森林ボランティアなど、都市農山村交流事例を調査し、受け入れ側に立ち、交流現場に直接関わる。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市農山村交流への社会的背景とその意義 2. 都市農山村交流についての事例調査、具体的活動への参加、調査 3. 参加活動における課題と対応策、今後の展望について全員討議 4. 今後の活動に向けての改善策等を考える（レポート） 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	見学（山林）（コードNo.5）						

科 目		担当者(○主担当)					
山村活性化事例研究2		○ 嵯峨創平 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	農山村の活性化に効果を上げている地域事業について学びつつ、地域活性化事業を事例研究（ケーススタディ）する視点と方法論について学ぶ。						
概 要	1,2年生合同のチームを編成し、学年により役割を分担しながら、対象事例のポイントとなる要素を把握し記述するグループワーク方式の事例研究法を実施する。事業タイプの異なる事例を訪ねて、年4回実施する予定。						
項 目	○事例研究（ケーススタディ）とは ○ケーススタディの視点（立地条件、事業形態、人的資源、商品開発、販売促進など） ○ケーススタディのまとめ方（地図、年表、図表、経営分析、ポイント抽出など） ○山村の活性化事業を訪ねて学ぶフィールドワーク						
テキスト参考書	参考書：小田切徳美編(2013)「農山村再生に挑む」、佐々木雅幸編(2014)「創造農村」、望月達史(1995)「地域経営の知恵」ほか						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポートなど。						
関連する資格							
注意事項	山村活性化事例研究1（1年生科目）と合同で実施する。						

科 目		担当者(○主担当)					
農薬科学・林業薬剤		○ 津田 格 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	農薬・林業薬剤は、近代的集約農林業体系において不可欠なものとなっている。本科目では農林業上、重要な病虫害について概観するとともに、農薬・林業薬剤に関する知識を得ることを目的とする。						
概 要	農薬の種類、生理作用、用途、安全性評価、樹木や林業で使用されている農薬・林業薬剤を中心に病虫害と防除方法について概説する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林業薬剤・農薬とは何か 2. 林業薬剤・農薬の定義 3. 農薬の生理作用と作用機構 4. 農薬の代謝と環境中挙動 5. 農薬の毒性、安全性の評価 6. マツノザイセンチュウの被害と防除方法 7. 森林病虫害の防除方法 8. 樹木保護の方法・新展開 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート等						
関連する資格	樹木医補						
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
造園土木技術		○ 柳澤直 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	樹木の生態や生理に関する知識を有し、樹木の保護を体系的・総合的に判断できる専門技術者を育成するための、造園樹木に関する基礎知識の習得と、実地での基礎的な造園土木技術の習得を本実習の目的とする。						
概 要	本実習では、造園業で必要とされる技術とその考え方について講義を受けたのち、造園で使われる基本的技術を実際に屋外での作業により体験する。また、樹木の診断・保護対策・保護制度等について樹木医から実例を交えながら講義を受け、公園の植栽現場にて樹木診断に関する実習を受講する。						
項 目	1. 樹木の生理・生態 2. 樹木の構造と機能 3. 大気汚染害・気象害の診断と対策 4. 土壌診断 5. 樹木の保護制度 6. 総合診断・診断書の作成						
テキスト参考書	配布資料および 「最新・樹木医の手引き」 (日本緑化センター)						
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格	樹木医補						
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
パーマカルチャー実習2 (応用編)		○ 萩原裕作 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森からはじまる持続可能な暮らしを提案していく学校・森林文化アカデミー」の学生としては欠かせない持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」の基本的な理念と技術を学びます。						
概 要	1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」のアイデアをもとに、実際にアカデミー内の空間をデザインし自らの手で作り上げ、その後も維持管理、観察を続けることでパーマカルチャーの理念を体験的に学んでもらいます。						
項 目	<p>年ごとにメインテーマは異なるため多少の変動はありますが基本的に以下のよう内容に触れながら授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーマカルチャーとは ○ パーマカルチャーが生まれた理由とこれからの課題 ○ 基本理念 ○ 空間とは ○ 自然の原理 ○ デザインする ○ 土壌と植物の関係 ○ チームでの作業 ○ 観察 ○ 考察 ○ ふりかえり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度をもとに評価します。						
関連する資格							
注意事項	1泊2日の合宿になる予定です。						

科 目		担当者(○主担当)					
野生動物管理演習		○ 原島幹典 川尻秀樹 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	全国各地において深刻化している、ニホンジカをはじめとする野生動物による農林業被害に対して、有効な対策を提案でき、かつその活動に関われることを目標とする。						
概 要	狩猟免許の取得に関する知識の習得、動態調査の実習、および捕獲動物の資源的利用事例を調査する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 狩猟免許に関する法規及び、免許取得に必要な知識と心得 2. 野生動物の生態および被害の調査 3. 野生動物の資源的利用の調査 4. 狩猟現場の視察 						
テキスト 参考書							
事前履修科目	「野生動物管理概論」						
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項	実習に必要な費用（見学参加費等）は各自負担						

科 目		担当者(○主担当)					
里山プロジェクト実習		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	1年後期・2年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	昭和30年代から利用が停止することにより、質的な変化を生じている里山の自然を再び利用するために、様々な里山利用、保全活動の先進的な現場を見学し、調査することによって新しい里山の利用や保全について提案する。						
概 要	里山のバイオマス利用や、竹林の利用、そして里山に生育する絶滅危惧種の保全活動を行っている現場を訪問し、それぞれの活動に参加すると共に、利用の現場での里山の変化について科学的調査も行うことによって、利用と保全の結びつきについて学び、新しい里山利用の可能性についても検討する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 里山のバイオマス利用について 2. 里山林の伐採地の生物相の調査 3. 竹林の利用に関する調査と竹林伐採の見学 4. ほだ木・薪等の生産現場の見学 5. 薪炭林の生物相調査 6. 粗朶山と粗朶を使った河川工事の見学 7. 生物保全活動の現場の見学 <p>※見学、活動内容は相手先活動団体の都合等により、変更する場合があります。</p>						
テキスト参考書	エコロジーガイド里山の自然（保育社）						
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
地域プロジェクト実習		○ 原島幹典					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	対象地域、対象事業の活動に参画しながら、地域の活動をマネジメントする視点で記録し、企画運営する実践力を身に付けることを目標とする。						
概 要	対象地域事例について、その主催者と共に、活動の企画、運営、評価、改善を、PDCAの手法にのっとして実践する。						
項 目	水源地域の森林空間や、里山資源を活用した活動への参画。						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、指定された場での発表						
関連する資格							
注意事項	実習一般（コードNo.1）						

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニティデザイン総合演習		○ 嵯峨創平 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr 共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山村づくり講座の1年次で学んだ科目を総合して、実際の地域を対象にコミュニティデザインの考え方、進め方をアクションラーニング方式で学ぶ。						
概 要	「地域調査法演習」「地域計画法演習」「ファシリテーション入門」「コミュニティビジネス起業論」「情報発信演習」などで学んだ基礎知識を、実際の地域を対象に総合化するプロジェクト型演習を実施する。本年度は、美濃市蕨生地区の「和紙の里」の活性化を扱う予定。						
項 目	○コミュニティデザインという考え方 ○対象地域と課題設定のゼミ ○ゼミ運営の約束と役割分担 ○対象地域のフィールドワーク、ワークショップ、情報発信などを繰り返しながら年度内の目標に向けて、地域の方々と共にアクションラーニングを展開する。						
テキスト 参考書	参考書：山崎亮「まちの幸福論～コミュニティデザインから考える」、佐々木雅幸編「創造農村－過疎をクリエイティブに生きる戦略」ほか						
事前履修科目	山村づくり講座1年生科目（上記）を履修した者が望ましい。						
評価方法	出席、プロジェクト貢献度、レポートなどで総合的に評価する。						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
フィールドワーク2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	インタープリターや自然体験指導者など、自然と人をつなぐ活動をしていく上で必要な「自然の見方(視点)」を身近な動植物の観察や記録を通して学びます。						
概 要	アカデミーの敷地内(演習林含む)を主なフィールドに自然体験活動をしていく中で、動植物の観察や記録を続け、身近な植物や動物の季節変化や自然を様々な角度から見ていくことの重要性に気づいてもらいます。2年目の学生は、「予測して観察する」「テーマを持って観察する」ことに挑戦してもらい						
項 目	<p>以下のことについて触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> なぜフィールドワークが必要か <input type="checkbox"/> フィールドワークに使う道具 <input type="checkbox"/> フィールドでのマナー <input type="checkbox"/> フィールドワークの視点 <input type="checkbox"/> 観察・記録方法 <input type="checkbox"/> 図鑑での調べ方 <input type="checkbox"/> 自然を観察する際のポイント <input type="checkbox"/> 予測して自然を見る <input type="checkbox"/> 記録を活用する <input type="checkbox"/> テーマをもって観察する 						
テキスト 参考書	授業内で適宜紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・成果物などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	レンタルも可能ですが、自分のフィールドノート、図鑑、観察用具(双眼鏡、ルーペ等)があると便利です。(授業内で紹介)						

科 目		担当者(○主担当)					
自然学校・ビジターセンター2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	施設毎に異なる自然学校やオルタナティブスクール、ビジターセンターなどの特徴や現状について知ると同時に、この業界で活動するためのイメージを養い、今後の自らの活動展開の参考にしてもらいたいと思います。						
概 要	全国に広がる自然学校やビジターセンター、オルタナティブスクールなどを実際に訪れ、担当者から現場の様子や活動内容についてのお話を伺ったり、活動の中で大切にしている手法やその場の力など、現場を訪れないと分からないことを学生自らの感覚を駆使して学んでもらいます。						
項 目	<p>この実習を通して以下のことについて現場から学びとってもらいたいと思います。2年目の学生は、今までの活動経験や今後の活動計画の視点からの質問や視点を持って見学してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自然学校／ビジターセンター／オルタナティブスクールとは <input type="checkbox"/> それぞれの施設の役割 <input type="checkbox"/> 施設の特徴、多様さ <input type="checkbox"/> 活動内容 <input type="checkbox"/> スタッフの仕事の内容 <input type="checkbox"/> 展示や活動プログラム <input type="checkbox"/> 利用者の視点 <input type="checkbox"/> 自らの興味やスキルを活かすには ほか 						
テキスト 参考書	授業内で適宜紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	施設の見学料や、宿泊を伴う場合には、食事や宿泊費の実費が別途かかることがあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
環境教育施設組織経営論2 (応用編)		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自然学校やオルタナティブスクール、子どもに関する活動の第一線で活躍しているプロの方から、生き方や哲学、運営のノウハウ、現状と課題を聴くことで、将来の自分のシゴト感や具体的なイメージを構築するための時間です。						
概 要	自然学校やオルタナティブスクール、子どもに関する活動現場で活躍するプロを直接訪れるかあるいはアカデミーにお招きして、ゆっくりとお話を伺ったり、質疑応答や議論をしたり、あるいはワークショップスタイルで展開したりとその場に合わせたスタイルで進めていきます。						
項 目	<p>本授業を通して以下のことについて感じ、考え、学びへとつないでいくと共に自らの卒業後のイメージを構築してもらいます。また、ゲスト講師からより多くの学びを引き出すことにも挑戦してもらいたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な運営形態 ○ 「思い」の重要性 ○ この業界でシゴトをするということ ○ 感覚的な部分 ○ なぜその組織や活動が現代社会の中でうまくいっているのか ○ 自分と異なる視点は何か ○ 今の自分になにが必要か ○ 自分らしいシゴトのデザイン ほか 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	現地を訪れる際に、宿泊費や食費実費がかかる場合があります。また、授業内では聴けなかった更に深い話をするために放課後に夕食をとりながら学び合いやふりかえりの時間を設けることもあります(希望者)。						

科 目		担当者(○主担当)					
自然体験プログラム実習2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	環境教育や自然体験の現場でよく使われるアクティビティ（プログラム）を対象者や状況に合わせて適切に提供できるようになることがねらいです。2年目（応用編）はより多くのアウトプット（指導実践）が期待されます。						
概 要	代表的なアクティビティ（プログラム）の数々を体験した後、実際に誰かを対象に自分が指導してみる経験を繰り返すことで、それぞれのアクティビティの特徴や指導する際の注意点などを習得してもらいます。						
項 目	<p>以下がこの授業で触れていく項目です（あくまで予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プログラム体験 ネイチャーゲーム／プロジェクトワイルド アースエデュケーション／他各種定番プログラム ○ プログラム実践 体験したプログラムを幼児から大人まで様々な年齢を対象に実践 ○ プログラムのアレンジ（対象者や自分に合わせていく） ○ プログラムのメリット・デメリットに気づく ○ オリジナルのプログラムづくり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業内態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	プログラム実践のために時には週末（休日）に授業をすることもあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
インタープリテーション実習2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	見えないものを見る化し、物事の背景にあるメッセージを効果的に伝える手法としてアメリカの国立公園で発展した「インタープリテーション」の技術や理念を習得し、自分なりのスタイルを構築することを目的としています。						
概 要	自然観察会、エコツアーイベント、自然教室、生涯学習講座、プレイパークや森のようちえんなどの現場でホンモノの参加者を対象としたインタープリテーションプログラムを提供する経験を繰り返し技術を磨いていきます。2年目にはより自分らしいスタイルを構築していくことに力を入れてもらいます。						
項 目	<p>以下のことについて触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インタープリテーションとは ○ インタープリテーションの原則 ○ 多様なスタイルを知る ○ インタープリテーションを構成するもの ○ 人前で話す時のポイント ○ ツアーやグループ（集団）を扱う時のポイント ○ 自分の癖を理解する ○ インタープリテーションの企画と実践 ○ フィードバックと改善 ○ ふりかえり 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	実践のために時には週末（休日）に授業をすることもあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
プログラムデザイン2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	120	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自然体験活動やイベントの企画、広報、準備、運営のために必要な知識や技術を習得することで現場の即戦力として活躍できるだけの力をつけてもらいます。						
概 要	主に夏と冬にアカデミーで小学生向けに行うキャンプをはじめ、自然観察会や生涯学習などのイベントのディレクターとして実際に活動することで、それらを実現するために必要な知識や技術、感覚を繰り返し実践することで習得してもらいます。						
項 目	<p>この授業では以下のようなことについて触れていく予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 活動への思いの共有 <input type="checkbox"/> ねらいやゴールの設定 <input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 広報 <input type="checkbox"/> 準備、段取り <input type="checkbox"/> 子どもに寄り添う企画とは <input type="checkbox"/> ディレクターの役割 <input type="checkbox"/> スタッフとの関係 <input type="checkbox"/> ふりかえり 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	放課後や休日（祝日）に活動することが多々あります。						

科 目		担当者(○主担当)					
パーマカルチャー実習2 (応用編)		○ 萩原裕作 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森からはじまる持続可能な暮らしを提案していく学校・森林文化アカデミー」の学生としては欠かせない持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」の基本的な理念と技術を学びます。						
概 要	1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」のアイデアをもとに、実際にアカデミー内の空間をデザインし自らの手で作り上げ、その後も維持管理、観察を続けることでパーマカルチャーの理念を体験的に学んでもらいます。						
項 目	<p>年ごとにメインテーマは異なるため多少の変動はありますが基本的に以下のよ うな内容に触れながら授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーマカルチャーとは ○ パーマカルチャーが生まれた理由とこれからの課題 ○ 基本理念 ○ 空間とは ○ 自然の原理 ○ デザインする ○ 土壌と植物の関係 ○ チームでの作業 ○ 観察 ○ 考察 ○ ふりかえり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度をもとに評価します。						
関連する資格							
注意事項	1泊2日の合宿になる予定です。						

科 目		担当者(○主担当)					
森のようちえん実習2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森のようちえん」やその舞台となる森林空間の特徴と可能性について体験を通して感じてもらうと同時に、将来森と関わる人間として重要な「森づくりのための人づくり」のための手法や大切にしたいことを体験的に学びます。						
概 要	アカデミーの演習林で活動している野外自主保育サークル「森のだんごむし」が実施する森のようちえん活動の現場で子どもたちや森と直接向き合う中で目の前で起る事象と活動後のフィードバックから学びを得てもらいます。						
項 目	<p>現場に関わる中で沸き上がる課題や疑問から様々なことを学んでいくためこの実習で触れる項目は多種多様ですが、主に以下のようなことに触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 森のようちえんとは <input type="checkbox"/> 森のようちえんの歴史と現状 <input type="checkbox"/> 森林空間の可能性 <input type="checkbox"/> 森の中で育つ意味 <input type="checkbox"/> 森の特徴 <input type="checkbox"/> 子どもたちを受けとめる、見守るとは <input type="checkbox"/> 自主保育という動き <input type="checkbox"/> 活動を支えているものとは <input type="checkbox"/> 森づくりにつながる人づくり <input type="checkbox"/> 森で活動する上で便利な知識と技術 <input type="checkbox"/> 子どもと遊び <input type="checkbox"/> ふりかえり 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	担当教員に事前に相談の上、参加日を調整してください。一日の参加可能人数の制限あり。参加日は、野外で活動できる服装、弁当、水筒、カッパ（雨天時）、リュックで来てください。						

科 目		担当者(○主担当)					
プレーパーク実習2 (応用編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「自分の責任で自由に遊ぶ」がモットーのプレーパークを現場に、子どもに関わる大人として最も対応が難しいとされる「非構成型空間」で自由な遊びをうながす（見守る）ための技術や感覚、大切にしたい考えを磨きます。						
概 要	アカデミー内で開催している「みのプレーパーク」の現場で実際にプレイワーカーとして活動しながら、日々子どもたちとの間で起こることや終了後のふりかえりを通して各自に必要な学びを得て子どもに関わる大人として自らの技術を高めていきます。2年目は全体を見る力も身につけてもらいます。						
項 目	<p>現場に関わる中で沸き上がる課題や疑問から様々なことを学んでいくためこの実習で触れる項目は多種多様ですが、主に以下のようなことに触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> プレイワーカーとは <input type="checkbox"/> プレーパークの歴史と現状 <input type="checkbox"/> 自由な遊びの可能性 <input type="checkbox"/> 「生きる力」を育む <input type="checkbox"/> 遊びのスタイルと特徴 <input type="checkbox"/> 子どもたちを受けとめる、見守るとは <input type="checkbox"/> 自由と安全管理 <input type="checkbox"/> 活動を支えているものとは <input type="checkbox"/> なぜ今プレーパークか（社会が求めるもの） <input type="checkbox"/> プレイワーカーとして必要な知識と技術 <input type="checkbox"/> 全体を見る、場を見る <input type="checkbox"/> ふりかえり 他 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	担当教員に事前に相談の上、参加日を調整してください。参加日は、野外で活動できる服装、カッパ（雨天時）で来てください。						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築計画の応用		○ 廣田桂子 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築計画が、個別に異なる余条件のなかで、夫々の最適解答を探求するプロセスであることをふまえ、実践的な課題演習によって、計画立案の複雑な実際を学び、中山間地域の問題を見据えた計画立案と実施設計力の増強を目標とする。						
概 要	建築計画が、個別に異なる余条件のなかで、夫々の最適解答を探求するプロセスであることをふまえ、実践的な課題演習によって、計画立案の複雑な実際を学び、中山間地域の問題を見据えた計画立案と実施設計力の増強を目標とする。						
項 目	1. 地域性と持続可能建築 2. 低炭素建築：改修と木質化 3. 計画実習1 4. 設備と自然エネルギーについて 5. 話を聞いて調査・実習1：地域とユーザー 6. 話を聞いて調査・実習2：ステーク・ホルダー 7. 設計実習1：図面 8. 計画実習2：ロードマップ 9. 設計実習2：図面と模型 10. 設計実習3 11. 設計とプレゼン練習 12. プレゼン						
テキスト 参考書	「建築の理論を築く」J・ラング 「文化・建築・環境デザイン」A・ラポポート						
事前履修科目	木造建築計画の基礎						
評価方法	出席、レポート、図面、模型、プレゼンテーション						
関連する資格	木造建築士2級建築士1級建築士						
注意事項	メジャー、スケッチ・ブック、テクニカル・ペン、クラッチ・ペンシル、トレーシング・ペーパー、カメラ、縮尺定規を持参の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
パーマカルチャー実習2 (応用編)		○ 萩原裕作 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森からはじまる持続可能な暮らしを提案していく学校・森林文化アカデミー」の学生としては欠かせない持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」の基本的な理念と技術を学びます。						
概 要	1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」のアイデアをもとに、実際にアカデミー内の空間をデザインし自らの手で作り上げ、その後も維持管理、観察を続けることでパーマカルチャーの理念を体験的に学んでもらいます。						
項 目	<p>年ごとにメインテーマは異なるため多少の変動はありますが基本的に以下のよう内容に触れながら授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーマカルチャーとは ○ パーマカルチャーが生まれた理由とこれからの課題 ○ 基本理念 ○ 空間とは ○ 自然の原理 ○ デザインする ○ 土壌と植物の関係 ○ チームでの作業 ○ 観察 ○ 考察 ○ ふりかえり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度をもとに評価します。						
関連する資格							
注意事項	1泊2日の合宿になる予定です。						

科 目		担当者(○主担当)																					
木造建築病理学		○ 小原勝彦 吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 津田格 / 非常勤講師																					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択																
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり																						
目 的																							
概 要																							
項 目	<p>【目的】欧米ではBuilding Pathology（建築病理学）という学問分野がある。これは既存建物の不具合や劣化を調査診断して適切な保存・補修方法を提案において重要な役割を果たしている。欧米に比べ日本では住宅の診断業務がビジネスとして十分拡大していないが、今後の建物の高寿命化と性能の確保の必要性から、必要不可欠な技術体系であると考えられる。そこで英国での建築病理学とその関連資格を紹介している中島正夫先生（関東学院大学）監修、日本初の「木造建築病理学」において、これらの知識・技術を修得する。</p> <p>【概要】木造建築改修の体系を学ぶ。</p> <p>【1年前期】</p> <table border="0"> <tr> <td>① 建物の長寿命化の必要性</td> <td>② 建築病理学とは</td> </tr> <tr> <td>③ 耐震調査の目的・内容とその手順</td> <td>④ 各種検査機器と使用法</td> </tr> </table> <p>【1年後期】</p> <table border="0"> <tr> <td>⑤ 構造的な不具合の原因と対応策</td> <td>⑥ 木材の腐朽と防霉</td> </tr> <tr> <td>⑦ 現場における検査手順</td> <td>⑧ 報告書作成法</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨ 床・壁・屋根、その他の不具合とその対応</td> </tr> </table> <p>【2年前期】</p> <table border="0"> <tr> <td>⑩ 建築病理学の必要性</td> <td>⑪ 床下環境について～防蟻対策</td> </tr> </table> <p>【2年後期】</p> <table border="0"> <tr> <td>⑫ 温熱環境の改善と対策</td> <td>⑬ 法規・制度関連</td> </tr> <tr> <td>⑭ 室内空気質の改善と対策</td> <td>⑮ 契約依頼者との契約上の注意</td> </tr> </table>							① 建物の長寿命化の必要性	② 建築病理学とは	③ 耐震調査の目的・内容とその手順	④ 各種検査機器と使用法	⑤ 構造的な不具合の原因と対応策	⑥ 木材の腐朽と防霉	⑦ 現場における検査手順	⑧ 報告書作成法	⑨ 床・壁・屋根、その他の不具合とその対応		⑩ 建築病理学の必要性	⑪ 床下環境について～防蟻対策	⑫ 温熱環境の改善と対策	⑬ 法規・制度関連	⑭ 室内空気質の改善と対策	⑮ 契約依頼者との契約上の注意
① 建物の長寿命化の必要性	② 建築病理学とは																						
③ 耐震調査の目的・内容とその手順	④ 各種検査機器と使用法																						
⑤ 構造的な不具合の原因と対応策	⑥ 木材の腐朽と防霉																						
⑦ 現場における検査手順	⑧ 報告書作成法																						
⑨ 床・壁・屋根、その他の不具合とその対応																							
⑩ 建築病理学の必要性	⑪ 床下環境について～防蟻対策																						
⑫ 温熱環境の改善と対策	⑬ 法規・制度関連																						
⑭ 室内空気質の改善と対策	⑮ 契約依頼者との契約上の注意																						
テキスト参考書	随時プリント配布																						
事前履修科目	なし（ただし、木造建築病理学実習と同時受講とする。）																						
評価方法	出席、試験、レポートなど																						
関連する資格																							
注意事項																							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築病理学実習		○ 小原勝彦 吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 / 津田格					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	適切な保存・改修方法を提案するために、既存建物の耐震性能、温熱性能、不具合や劣化などを調査診断する。						
概 要	実物件の調査診断をする。						
項 目	<p>実習の実施日は前もってそのつど発表する。実習の項目は次のとおりであるが、木造建築病理学の講義・演習において詳細を説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前調査 調査計画～詳細調査積算 2. 詳細調査 平面図作成調査、立面図作成調査、矩計図作成調査、各階伏図作成調査 基礎伏図作成調査、展開図作成調査 小屋裏調査、床下調査、地盤調査、温熱調査、常時微動測定 温熱測定、劣化調査、含水率調査、家歴調査、など 3. 「住まいの診断レポート」作成 構造性能診断、温熱環境診断、耐久性能診断、など 						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし（ただし、木造建築病理学と同時受講とする。）						
評価方法	調査参加回数、主担当回数nado						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木質構造設計の基本		○ 小原勝彦					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	構造設計の基本的な流れを学ぶ。いろいろな建築構造の問題を解き、構造問題の解決法について理解を深める。						
概 要	本授業では、基礎的問題から応用問題まで幅広く網羅する。問題解決には、数学的手法、実験的手法、解析的手法などを駆使する。						
項 目	<p>項目 以下のポイントについて建築構造を考え、構造計画と構造設計の基本とその手法を学ぶ。学んだ手法を生かし、構造に関する木楽（もくがく）についても学ぶ。</p> <p>【構造計画と構造設計】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造計画と構造設計 2. 建物に作用する荷重と外力 3. 耐震計画・耐風計画の基本 4. 各種構造設計ルートについて 5. 構造計画と設計の概要 6. 耐力壁の計画と設計（壁量計算、側端充足率計算、偏心率計算） 7. 水平構面の計画と設計（床倍率計算） 8. 柱の計画と設計（小径、有効細長比、短期荷重時の座屈） 9. 接合部の計画と設計（N値計算） 10. 地盤調査とそのデータ処理（地盤調査データの読み方、即時沈下、圧密沈下、許容耐力） 11. 基礎の計画と設計（1 ベタ基礎） 12. 基礎の計画と設計（2 布基礎） 13. 基礎の計画と設計（3 杭基礎・柱状改良） 14. 基礎の計画と設計（4 栗コン・表層改良） 15. 許容応力度計算と限界耐力計算の考え方 16. 鉄筋コンクリート造の構造計画と設計（1 柱・梁） 17. 鉄筋コンクリート造の構造計画と設計（2 壁） 18. 鉄筋コンクリート造の構造計画と設計（3 配筋） 19. 鉄筋コンクリート造の構造計画と設計（4 接合部） 20. 鉄骨造の構造計画と設計（1 柱・梁） 21. 鉄骨造の構造計画と設計（2 壁） 22. 鉄骨造の構造計画と設計（3 溶接） 23. 鉄骨造の構造計画と設計（4 接合部） <p>【木楽（もくがく）における構造】</p>						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	木質構造力学・不静定構造						
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木質構造設計の応用		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	これまで学んできた建築構造についての総まとめという位置づけで、いろいろな建築構造の問題を解き、構造問題の解決法について理解を深める。						
概 要	本授業では、基礎的問題から応用問題まで幅広く網羅する。問題解決には、数学的手法、実験的手法、解析的手法などを駆使する。						
項 目	<p>【接合部の設計】</p> <p>1. 構造物の接合部のモデル化</p> <p>2. 建築の接合部の抵抗要素 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>3. 建築の接合部の抵抗要素 (2) 演習</p> <p>4. 建築の接合部の構造設計 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>5. 建築の接合部の構造設計 (2) 演習</p> <p>6. 建築の接合部の構造設計 (3) 課題演習</p> <p>7. 建築の接合部の構造計算 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>8. 建築の接合部の構造計算 (2) 演習</p> <p>9. 建築の接合部の構造計算 (3) 課題演習</p> <p>【大規模建築の設計】</p> <p>10. 大規模建築の構造計画 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>11. 大規模建築の構造計画 (2) 演習</p> <p>12. 大規模建築の構造設計 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>13. 大規模建築の構造設計 (2) 演習</p> <p>14. 大規模建築の構造計算 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>15. 大規模建築の構造計算 (2) 演習</p> <p>【合成梁の設計】</p> <p>16. 建築の合成梁の抵抗要素 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>17. 建築の合成梁の抵抗要素 (2) 演習</p> <p>18. 建築の合成梁の構造設計 (1) 解説【木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造他】</p> <p>19. 建築の合成梁の構造設計 (2) 演習</p> <p>20. 建築の合成梁の構造設計 (3) 課題演習</p>						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	木質構造設計の基本						
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の防火性能		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的							
概 要							
項 目	<p>【目的】2000年6月の改正建築基準法施行により、防災規定は建築基準法制定以来続いた仕様規定から性能規定に向けて大改正された。これにより、これまで、市街地では、モルタル塗り等で防火被覆をすることが前提とされてきた木造住宅についても、木材をあらわしにして使うなど、様々な技術開発の可能性が広がった。</p> <p>【概要】本講義では、この改正建築基準法の防火規定の内容や要求性能を十分に理解した上で、真壁造など、より木造らしい木造住宅を設計する手法を防火法令適合という観点から考える。さらに、防火材料及び防耐火部材の技術開発の手法や手続きを習得し、設計・施工実務者主導型の技術開発の可能性を一緒に考えていく。</p> <p>講義① 木造に関する法令改正の歴史 講義② 建築基準法がいう防火とは 講義③ 内装制限を考える～木材はどのように燃えるか 講義④ 内装制限を考える～不燃材料は本当に燃えないか 講義⑤ 木造住宅の防火を考える～真壁を防火的にする 講義⑥ 木造住宅の防火を考える～木あらわし軒裏・壁を防火的にする 講義⑦ 防火に関する技術開発の手法 講義⑧ 総括～火事に強い木造とは</p>						
テキスト参考書	火事場のサイエンス 長谷見雄二著 井上書院						
事前履修科目							
評価方法	出席およびレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
環境科学概論		○ 柳澤直 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	複雑化する環境問題に対応するため、環境評価に関する法律・制度を学び、開発という人為的行為の影響や、人間環境への影響について、事例を講義と現地での実習によって学習し、それぞれの分野の学びに活かすことを目的とする。						
概 要	人間活動が環境に与える影響には、人間の暮らす環境に関する問題と、自然環境に関する問題があるが、現代ではその2者は互いに関連して問題を複雑化させている。本授業では、①環境評価に関する法律・制度を学び、②開発が自然環境に与える影響や、環境へ配慮した(持続可能)の実例について学習する。						
項 目	1. 環境問題とは 2. 戦略的環境評価について 3. 人間健康リスクアセスメントについて 4. 環境健康影響アセスメントについて 5. 開発と自然の利用・保全について 6. 環境アセスメントの実際について 7. 長良川河口堰の建設について 8. 藤前干潟について 9. 大阪鶴見緑地国連施設計画について 10. 地球温暖化・気候変動について 11. 持続可能開発について 12. 環境-地球規模視点について						
テキスト 参考書	Eco-Town in Japan GCEF						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート、実習作業						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の設計製図		○ 辻充孝					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	一冊の実設計図書の作図を通して、それぞれの図面の必要性や意味合い、留意事項を理解することを目的とする。						
概 要	モデルとなるものは、各自が計画した建物とし、一冊の実設計図書を完成させる。それぞれの項目で、図面の意図を確認する。						
項 目	1. 特記仕様書・仕上げ表 2. 面積表 3. 配置図・平面図 4. 立面図 5. 矩計図 6. 台所詳細図、水廻り詳細図 7. 展開図 8. 枠廻り詳細図① 9. 枠廻り詳細図② 10. 電気設備図 11. 電気設備リスト 12. 給排水設備図 13. 衛生機器リスト 14. 構造図 15. 施工図						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の環境性能設計		○ 辻充孝					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木造建築をいろいろな側面から検証することで、建物性能を定量的に評価する手法を身に付け、住まいの性能に合わせた暖冷房設備の選定を行えることを目的とする。						
概 要	断熱性能から、暖房時の必要なエネルギー量を把握し住宅の熱的性能を理解する。同時に結露の危険度も認識し、換気計画を考える。 省エネルギー設計では、住まいにかかる暖冷房、換気、給湯、照明エネルギー割合や、削減手法を学習し、計画に活かす方法を学習する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住宅のエネルギー消費量（暖冷房、換気、給湯、照明） 2. 熱損失係数の結果から暖冷房設備を考える 3. 熱損失係数からわかること 暖房機器の選定方法、ケーススタディ 4. 一般ソフトを使用した熱損失係数の計算と結果の活かし方 5. 換気設備と結露 6. 給排水設備の考え方 7. 電気設備、その他設備の考え方 8. 給湯設備の考え方 9. 住まいにおける省エネルギー性能の考え方 10. 住まいの省エネルギー設計 11. 住まいの環境性能について 12. 環境性能の評価（CASBEE） 13. 住宅設備シミュレーション 14. 住まいの性能設計演習① 15. 住まいの性能設計演習② 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
建築設計製図・構造図		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	構造図の作成方法を学ぶ。						
概 要	学生自ら設計した建物の構造図を作成する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、構造図の役割 2. 基礎伏図のトレース 3. 軸組図のトレース 4. 床伏図のトレース 5. 小屋伏図のトレース 6. 基礎詳細図のトレース 7. 接合詳細図のトレース 8. 課題Ⅰ（木造軸組構法住宅）の課題発表 9. 基礎伏図の作成 10. 軸組図の作成 11. 床伏図の作成 12. 小屋伏図の作成 13. 基礎詳細図の作成 14. 接合詳細図の作成 15. 課題Ⅰ（木造軸組構法住宅）の発表会・講評 16. 課題Ⅱ（大規模建築物、RC造・S造など木造以外の構造との混構造を含む： 概ね1000㎡程度の学校・事務所・複合施設等）の課題発表 17. 基礎伏図の作成 18. 軸組図の作成 19. 床伏図の作成 20. 小屋伏図の作成 21. 基礎詳細図の作成 22. 接合詳細図の作成 23. 課題Ⅱ（大規模建築物、RC造・S造など木造以外の構造との混構造を含む： 概ね1000㎡程度の学校・事務所・複合施設等）の発表会・講評 						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席およびレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
人間生活環境設計 ～木造のためのデザイン～		○ 廣田桂子 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築は、人間にとって健やかで健康的な住空間を提供しなければならない一面を持つ。この教科では、人間生活環境を居住者の健康面との関連で学習し、その知識を活用した設計手法の獲得を目的とする。						
概 要	建築は、人間にとって健やかで健康的な住空間を提供しなければならない一面を持つ。この教科では、人間生活環境を居住者の健康面との関連で学習し、その知識を活用した設計手法の獲得を目的とする。						
項 目	1. 人間生活環境学：衣食住 2. 環境と健康 3. 実測調査 4. 健康に配慮した優しい空間の設計 5. 健康に配慮した優しい設備設計：給排水 6. 健康に配慮した優しい設備設計：空調 7. 健康に配慮した優しい設備設計：電機 8. 健康に配慮した優しい設備設計：採光 9. 設計実習1：図面と模型 10. 設計実習2 11. 設計とプレゼン練習 12. プレゼン						
テキスト 参考書	「災害復興住宅と室内空気質汚染」廣田桂子 「構築環境の意味を読む」A ラポポート						
事前履修科目	木造建築計画の基礎木造建築環境						
評価方法	出席、レポート、図面、模型、プレゼンテーション						
関連する資格	木造建築士2級建築士1級建築士						
注意事項	メジャー、スケッチ・ブック、テクニカル・ペン、クラッチ・ペンシル、トレーシング・ペーパー、カメラ、縮尺定規を持参の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
住まいの材料学		○ 吉野安里					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input checked="" type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	合板、集成材など製材以外の木材加工品を理解する						
概 要	単板を接着した合板、短尺の板材(ラミナ)を接着した集成材の仕組み、原理、機能、規格を理解し、実際に集成材を作成する。						
項 目	1. 集成材の仕組み 2. 集成材の原理と機能 3. 集成材の規格 4. 縦継材の製造 5. 集成材の製造 6. 合板工場の理解と見学						
テキスト 参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	木材乾燥、木材強度と建築利用 樹種と材質						
評価方法	出席 レポート						
関連する資格	なし						
注意事項	実習時、見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参 エンジニア科の合板集成材とともに実施						

科 目		担当者(○主担当)					
住まいの材料学実習		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築物を構成する構造材料や部材について、いくつかの基礎的な実験を行い、それらの物理的特性を把握することを目的とする。						
概 要	実験や測定結果から講義で学習した理論を確認し、理解を深める。						
項 目	1. ガイダンス実験・演習の目的と進め方を説明する。 2. ~11. コンクリート セメントの製造法・性質、骨材・混和材料の性質、コンクリートの製造法、調合設計、フレッシュコンクリートの性質・試験法、固まったコンクリートの力学的特性・物理的特性について。コンクリートの調合設計演習を行い、実際に練り混ぜを行ってスランプ試験を行う。コンクリートシリンダ供試体の圧縮強度実験（1週、4週）および割裂引張強度実験を行う。 12. ~21. 鋼材 鋼の原料、製鉄技術とその歴史、鋼材の分類と化学組成、鋼材の物性と応力-ひずみ関係、物性の試験方法について。鋼材の引張試験。 22. ~30. 非構造材 構造材料と非構造材（金属系・セラミックス系材料・高分子系材料・他）の違い、活用される材料特性、建築物における利用例などについて。						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席およびレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木材乾燥		○ 吉野安里 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input checked="" type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木材乾燥を理解する						
概 要	木材の乾燥について、実際に測定を通して理解する。						
項 目	1. 建築用木材と水 2. 含水率 3. 乾燥の仕組み 4. 実際の建築用木材乾燥 4.1. 実大の生木材を使用し、授業時間毎に重量を測定して天然乾燥の推移を測定する 4.2. 重量とともに含水率計にて含水率の測定を実施し、重量から測定する含水率値との対比を知る 4.3. スギとヒノキ別に乾燥し、それぞれの乾燥特徴を理解する						
テキスト 参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	原木流通、樹種と材質						
評価方法	出席 レポート						
関連する資格	なし						
注意事項	見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参 エンジニア科林産業と同時開催						

科 目		担当者(○主担当)					
木材強度と建築利用		○ 吉野安里					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input checked="" type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木材強度を理解する						
概 要	木材の強度について、利用される建築用途の性能要求から理解する。						
項 目	1. 純粋な木材強度 2. 強度と剛性 3. 建築に必要な木材強度値 4. 試験データから求める基準強度 5. 基準強度と許容応力度 6. 自力建設用木材を用いて強度試験を体験する 6.1 各種ヤング係数を測定する 6.2 各種ヤング係数間の相違を比較する 6.3 一部の材料を用いて曲げ破壊試験を実施する						
テキスト参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	原木流通、樹種と材質						
評価方法	出席 レポート						
関連する資格	なし						
注意事項	見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参 エンジニア科林産業と同時開催						

科 目		担当者(○主担当)					
製品流通		○ 吉野安里 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input checked="" type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	製品流通の現状を知る						
概 要	製材工場、プレカット工場の現状と製品市場を知る。						
項 目	1. 戦後構築されてきた木材流通体系の現状 2. 人材不足と、加工機械の技術発達をもたらしたプレカット工場 3. プレカットがもたらした建築用材の木材乾燥 市場見学（製品市場） プレカット工場 2回程度						
テキスト 参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	原木流通、木材乾燥、木材強度と建築利用 樹種と材質						
評価方法	出席 レポート						
関連する資格	なし						
注意事項	見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参 エンジニア科林産業と同時開催						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築法規		○ 辻充孝 小原勝彦					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木造建築を設計する際、様々な法規制によって計画が制限される。この制限の中で、自らの考えを自在に構築し、実現可能な計画とするために、最低限の法律を知っておく必要があり、基礎的な法規を学ぶことを目的とする。						
概 要	本講義では、主に木造建築に関する計画・設計・工事監理等の法規の知識、法規的取り扱いの基礎を学習する。 建築基準法の集団規定・単体規定を中心に、都市計画法、住宅品質確保促進法、建築物耐震改修促進法、建築士法など関連する法規にもふれて学習する。						
項 目	<p>建築確認申請書をはじめ、各種書類の意味合いや作成方法も合わせて学習し、建築関係法令集を適切に参照して法規的課題を解決できる能力を養成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築関係法規の概要、建築基準法の目的と構成 2. 集団規定①（地域地区、用途地域ほか） 3. 集団規定②（道路規定、容積率、建ぺい率ほか） 4. 集団規定③（面積の算定方法ほか） 5. 集団規定④（斜線制限、日影規制ほか） 6. 単体規定①（採光、換気ほか） 7. 単体規定②（各種高さ、階段ほか） 8. 単体規定③（内装制限、避難規定、排煙規定ほか） 9. 単体規定④（構造計算ルート） 10. その他の関係法令①（建築士法他） 11. その他の関係法令②（品確法他） 12. 各種書類の意味と作成方法（建築確認申請書ほか） 13. 改修時における留意点① 14. 改修時における留意点② 15. 改修時における留意点③ 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の総合デザイン演習		○ 辻充孝 小原勝彦 / 廣田桂子 / 吉野安里					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	専門性の高い個別の授業成果を、ある課題に対して、それぞれの専門分野の内容を活用しながら計画を行う。これにより、個々の科目が実際にどの段階で必要になり、デザインする段階で、どんな効果が得られるのかを習得する。						
概 要	1、2年合同、あるいは外部専門家と協働で行うことで、共同作業の利点や難しさ、短期間でまとめあげる力を養う。						
項 目	課題発表 敷地の現地調査 設計と条件の整理 基本設計 構造形式（木造、S造、RC造）の検討 壁量計算・熱損失計算等の性能評価 木材の利用提案 室内環境のデザイン プレゼンテーション 上記内容を1年時と2年時に行う。						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
建築防災計画		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築防災について、特に計画面を中心に、つまり、建築防災計画の考え方やまとめ方を学ぶ。						
概 要	避難安全に関する性能規定化に対応して、建築用途別に要点や特長を学ぶとともに、性能規定化の概要などについて学ぶ。						
項 目	1. 建築防災計画の考え方 (建築防災と性能規定化、防火・避難関連規定の変革、防耐火・避難関連法規の性能規定化) 2. 防災計画の考え方(1) (建築防災計画書の作成、防災計画の考え方) 3. 防災計画の考え方(2) (防災計画の組み立て方、出火防止、発見・通報、拡大防止、初期消火、煙制御) 4. 防災計画の考え方(3) (避難、耐火、消防・救助、管理運営) 5. 建築防災計画のまとめ方(1) (用途別防災計画のまとめ方：事務所ビル、大規模店舗、ホテル、ホール・シネコン) 6. 建築防災計画のまとめ方(2) (用途別防災計画のまとめ方：博物館・美術館、高層共同住宅、病院、学校) 7. 建築防災計画のまとめ方(3) (用途別防災計画のまとめ方：複合建築、大空間・アトリウム、ガラス建築、木造建築) 8. 建築防災計画のまとめ方(4) (用途別防災計画のまとめ方：コンバージョン・リニューアル及び既存不適格建築物の改修) 9. 特殊な防排煙システムの組立て方 (大空間の蓄煙、第二種排煙、加圧防煙、空調兼用排煙) 10. 避難安全と耐火性能の検証(1) (避難安全検証の概要、避難安全検証のしくみ) 11. 避難安全と耐火性能の検証(2) (避難安全検証の計算例) 12. 避難安全と耐火性能の検証(3) (耐火性能検証の概要)						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席およびレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築構造の展示の実践		○ 小原勝彦 辻充孝					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	120	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築では多くの場でプレゼンテーションすることが必要となる。建築実務の場ではいろいろな展示会があり、来場対象者に応じた企画力、資料作成能力、プレゼンテーション能力をはじめ、実践力が必要である。						
概 要	実際にプロが主催する展示会に学生が木造建築構造の展示を行う。行政、外郭団体、大学など教育機関や建築実務者などとの連携が不可欠となる。こういった連携において、実践的な場で取り組む。						
項 目	<p>木造建築構造に関する内容に係る展示会の視察を行う。木造建築構造に関する内容に係る展示会の企画や運営などを実施する。</p> <p>展示の視察例や実践例</p> <p>(1) 耐震博覧会（株式会社ナイス） (2) 建築総合展（株式会社中部経済新聞社） (3) ぎふ建築・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展（一般社団法人建築学会） (4) ぎふ住まいるコレクション（社団法人岐阜県建築士会） など。</p>						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
ものづくりと暮らしゼミ		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	180	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	ものづくりは、暮らしをつくることであり、人とモノの命を大切する心づくりでもある。学校生活という日常を大切に過ごしながら振り返り、木と暮らすライフスタイルを提案する力を養うことを目的とする。						
概 要	月1回の定例工房管理とゼミ。「作り→使い→直す(ブラッシュアップ)」モノの循環も2年間を通して体感することを目指す。また県内外の地域をフォーカスし、歴史・文化・産業等の視点で暮らしを調査研究する。まとめとして木のライフスタイルを提案する展示会も開催する。						
項 目	0. 暮らしを整える ○工房管理(月1回) ○大掃除(年3回) 1. 知る ○文化・歴史を知る(東京) ○地域の暮らしを知る(中津川) 2. 創造する ○食を創造する(制作+食事会)(年3回) 3. 伝える ○伝えるワークショップ ○全体ゼミ(月1回) ○学内展示会(前期終了展) ○展示会(販売)						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート・展示のプレゼンテーション						
関連する資格							
注意事項	年1回の宿泊を伴う実習がある。						

科 目		担当者(○主担当)					
ものづくりと仕組みづくりゼミ		○ 和田賢治 松井勅尚 / 久津輪雅 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	ものづくりをこれからの社会の新しい「仕組みづくり」として取り組む先進事例の見学、外部講師による講義をとおして、新たなものづくりのあり方を考える。						
概 要	新しいプロジェクトの取り組み方(人の巻き込み方、情報の発信の仕方、資金調達方法)でこれまでにないものづくりとして支持を集めている例が増えてきている。そのような事例について、見学や講義を通して学び、自身の卒業後の仕事のあり方について考える。						
項 目	講義 ・ 先進事例に関わる方の講義 ナカジマウッドターニングスタジオ 中島信太郎 (予定) ・ 教員が取り組む活動紹介 見学 (予定) ・ 5月 TSUGI (福井) ・ 12月 エコプロダクツ展 (東京)						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席 / レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
感性を問う		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	感性（美意識）とは「時代の空気」のようなものであると考える。これを自ら疑い客観視することは難しい。この授業では、このことを問い直し、主体的に判断するためのきっかけを提供することを目的とする。						
概 要	旬の展覧会・展示会の見学や、デザイナー・研究者等ゲスト講師を招聘し、様々な切り口で価値観の多様性に触れ、自身の価値観を再構築する機会とする場を提供する。						
項 目	◎ガイダンス／「〇〇は、どこから来て・・・どこへ行くのか・・・」 ①美意識についてⅠ／身体尺 ②美意識についてⅡ／スギ ③美意識についてⅢ／木工家ウィーク見学 ④美意識についてⅣ／暮らしと家具の祭典見学 ⑤美意識についてⅤ／ギャラリーももぐさ見学						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木工の材料学		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	家具カトラリー等室内環境で木を使う場合の木材の物理的科学的性質を学ぶ。同時に、県内の様々な見学地を設定し、現場から学び取ることを目的とする。						
概 要	講義では、木材の性質・物性をものづくりの技術と関連付けて講義する。実習では、樹が倒れるところを見学することから始め、岐阜の森林とその利用状況を知る。実務的な力をつけるために、材料の現場見学を行い、また、いろいろな仕入れ先の得意分野を知る。						
項 目	(講義) 1. 木の構造の基本 2. 木材の同定 (応用) 3. 水分と木材の反応 4. 木材の乾燥 5. 木材と強度 6. 心材化と内部応力 (実習) 予定 7. 仕入れ先めぐり (金山チップセンター・桜井銘木) 8. 広葉樹二次林の天然林施業と広葉樹の伐採現場見学 (白鳥集中) 製材、栈積み、天然乾燥 9. 針葉樹人工林の施業と製材 (山共) 10. 川上 (高山) の市場見学、製材、人工乾燥の見学 (カネモク・西野製材) 11. 川下 (各務原) の市場見学 (岐阜木材団地) 12. エゴノキ採取						
テキスト参考書	木工材料 (雇用問題研究会)						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
手工具の自作と使用		○ 久津輪雅 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	豆匏などの手工具を自ら制作する技術を身に付けること、それらの自作の道具を用いて木の器を制作することを目的とする。						
概 要	身近な材料を使って手工具を作れるようになることで、自由に木を削ることが可能になり、制作しようとする木工作品の機能や形にも広がりが見られる。本実習は、木工家の工房へ出向き、合宿形式で行う。道具や器の制作とともに、プロの木工家から多くの学びを得ることも目的としている。						
項 目	1~8 豆匏の制作、皿の木取りと削り 9~16 バンカキの制作、皿の仕上げ						
テキスト 参考書							
事前履修科目	手工具木工機械						
評価方法	出席、作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴（サンダルは禁止）						

科 目		担当者(○主担当)					
木のおもちゃ		○ 松井勅尚 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「デザイン・工芸・美術」など、近代が産み出した概念にとらわれることなく、感性を開放する試みを「木で子どものための道具をつくる」ことによって体感することを目的とする。						
概 要	地域の文化や産業が持つポテンシャルを理解し、それを活かした新しい郷土玩具の開発を目指す。子どもが会う初めての木の道具である「おもちゃ」を、木と暮らすライフスタイルのスタートと捉え、心を育む重要なアイテムとしての可能性を模索する。						
項 目	1～2. ガイダンス（課題出し） 3～6. リサーチ1（地域の産業） 7～8. リサーチ2（みの赤ちゃん木育ひろば・市内保育園） 9～10. 試作プレゼン 11～14. 試作 15～16. モニタリング(みの赤ちゃん木育ひろば・市内保育園) 17～20. 本制作 21～22. プレゼンテーション						
テキスト 参考書	テキスト配布						
事前履修科目	木のカトラリー・木工機械使用法						
評価方法	作品のプレゼンテーションレポート						
関連する資格							
注意事項	野外での調査や、工房で機械を使用した実習を行うので、軽快な、また安全で作業しやすい服を着用の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
椅子の歴史と制作		○ 久津輪雅					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	西洋で昔から作られてきた木の椅子について、歴史を学ぶとともに、椅子の簡単な設計手法や製図法を学ぶ。その上で、木の椅子を実際に制作する技術を身に付けることを目的とする。						
概 要	板の座面と丸棒の背や脚からなるウィンザーチェアを基本とする。かつて身近な森の木で作られたもので、小径木の有効利用が可能なデザインである。また飛騨の家具メーカーがかつて量産して輸出するなど岐阜とも縁が深い。県生活技術研究所などの協力も得て設計を行い、各自が1脚ずつの椅子を制作する。						
項 目	1, 2 講義 ウィンザーチェアの歴史と構造 3, 4 デザイン検討 5, 6 製図 7, 8 生活技術研究所（人間工学） 9, 10 高山の家具メーカー見学（ウィンザーチェアの実例） 11, 12 製図 13~30 制作						
テキスト 参考書	「木工工作法」 「木工用機械」						
事前履修科目	手工具木工機械						
評価方法	出席、作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴（サンダルは禁止）						

科 目		担当者(○主担当)					
木材塗装の応用		○ 久津輪雅 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	水性ウレタン塗料や簡易なエアブラシを用いて、木のおもちゃなどの小物を美しく塗装する技術を学ぶ。 1年次で学んだ漆について、木工品を美しく仕上げるための応用技術を学ぶ。						
概 要	「木のおもちゃ」で制作した作品などを水性ウレタンで塗装する。 「伝統工芸の体験1(曲げわっぱ)」で制作した木地や、スプーン、箸、皿などの小物を漆で塗装する。また、漆製品を実際に使用して、使用感を確かめたり、手入れの仕方について学ぶ。						
項 目	1~3 水性ウレタン塗料 4~13 漆の実習 (拭き漆の上級技法、塗りの技法)						
テキスト 参考書							
事前履修科目	木材塗装の基礎						
評価方法	出席、作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴(サンダルは禁止)						

科 目		担当者(○主担当)					
木育講座の実践		○ 松井勅尚					
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「木育」とは、すべての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」 取り組みである。木でつくることが目的ではなく、人と木や森との関わりを主体的に考えられる場をPDCAサイクルを通して学ぶことを目的とする。						
概 要	1年次の「木育講座の基礎」に続く、実践編であり、美濃市子ども創造館事業「みの木育寺子屋」・「アートまるケット」・市内保育園等をフィールドとして、幼児～小学生を対象とした木育プログラムを企画し、持続可能な社会を目指すための教育の場を模索する。						
項 目	○ フィールド：「みの木育寺子屋」「アートまるケット」等 ①ガイダンスとフィールド調査 ②フィールド調査 ③企画 ④教材開発 ⑤木育プログラム開発 ⑥企画会議の開催 ⑦予算書作成 ⑧講座準備 ⑨会場準備 ⑩実践 ⑪振り返り ⑫報告書の作成						
テキスト 参考書							
事前履修科目	木育講座の基礎						
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
商品化と教材化		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	1年間のまとめとなる制作である。学んだことを統合した質の高い作品が要求される。商品化、または、教材化という視点を取り入れ実社会を意識したものづくりをすることを目的とする。						
概 要	デザインについての講義からはじめ、想定クライアントへの聞き取り、調査研究を繰り返し、商品（教材）を開発する。販売の現場も設定し、コストを意識した実践的な授業である。また、少量生産の制作を行うことで、一品生産とは違ったノウハウを習得する機会とする。						
項 目	1. ガイダンス 2. デザイン講義 3. 想定クライアントへの聞き取り 4. デザインゼミⅠ 5. デザインゼミⅡ 6. デザインゼミⅢ 7. プレゼンⅠ 8. 原価計算 9. 試作プレゼン（制作物の決定） 10. 制作の段取り準備 11～28、少量生産による制作 29. 検品 30. 販売実習 31. 振り返り・報告書提出（2年次）						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	報告書						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
地域材のクラフト開発2		○ 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	90	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	オリジナルグッズの開発、制作を通して、地域材の生かし方、地域性を考慮したデザインなどを学ぶ。						
概 要	特定の施設のオリジナルグッズを開発し、制作を行う。デザインワーク（2年生）では、素材、伝統、技術、人など様々な側面から地域、施設の調査を行い、地域性を生かしたグッズの提案をする。また量産（1、2年合同）では、商品レベルの確保した制作の実践を行う。						
項 目	1. ニーズ調査（4月～6月） 2. 地域資源調査（4月～6月） 3. 試作品開発（5月～6月） 4. プレゼンテーション（7月） 5. 製作準備・治具制作（7月） 6. 製作（9月） 7. 納品（9月） *1年生は、6. 制作のみ参加 *制作時は、2年生はリーダーとして1年生を指揮する						
テキスト参考書	木工用機械 / 木材加工系実技教科書 / 木工工作法 *いずれも雇用・能力開発機構						
事前履修科目	手工具 / 木工機械 / 電動工具						
評価方法	出席 50% / 作品提出 25% / レポート 25%						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴 ・袖や裾のしまった服						

科 目		担当者(○主担当)					
地域材の家具開発		○ 久津輪雅					
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	実際のユーザーのために学習機を作ることで、顧客の要望を聞き取り、デザインや機能に落とし込み、提案する能力や、地域の材料を用途に合わせて適切に選択し、魅力的な製品に仕上げる能力を養うことを目的とする。						
概 要	実際にこれから学習機を必要とする子供を持つ家庭の協力を得て、家庭を訪問して顧客の要望を聞き取り、地域材を用いてオリジナルの学習機を制作する。完成した学習機は販売する。						
項 目	1~2 講義・市場リサーチ 3~6 聞き取り調査 7~10 抽斗の試作 11~30 制作						
テキスト参考書	「木工工作法」 「木工用機械」						
事前履修科目	手工具木工機械						
評価方法	出席・作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴（サンダルは禁止）						

科 目		担当者(○主担当)					
伝統工芸の見学		○ 久津輪雅					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	伝統工芸の職人の仕事を訪問して話を聞いたり作業風景を見学したりすることで、伝統工芸の価値を再発見し、技術の継承に関心を深めることを目的とする。						
概 要	「伝統工芸の見学」では、岐阜和傘、岐阜提灯、美濃和紙、飛騨春慶、竹細工、和船など岐阜県を中心とする伝統工芸の中からいくつかを選び、訪問する。						
項 目	1, 2 概論 岐阜県の伝統工芸について 3~8 仕事場見学						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
伝統工芸の体験1		○ 久津輪雅 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	伝統工芸の職人を招いて技術の一部を体験することで、伝統工芸の価値を再発見し、技術の継承に関心を深めることを目的とする。						
概 要	飛騨春慶の木地に使われているヒノキの曲げわっぱ作りを体験する。なお、ここで制作した木地は、2年前期の「木材塗装の応用」の授業で漆の塗装を施す。						
項 目	1~8 曲げわっぱの制作						
テキスト 参考書							
事前履修科目	手工具						
評価方法	出席、作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴（サンダルは禁止）						

科 目		担当者(○主担当)					
伝統工芸の体験2		○ 久津輪雅 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	美濃周辺における竹林や竹の利用についての現状を知ること、竹の利用方法のひとつとして竹細工を実際に体験することを目的とする。						
概 要	丸竹を割って、剥いで、ヒゴを作るという材料づくりから、簡単な六つ目の籠を編むまで、一連の作業を体験する。						
項 目	1 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・美濃周辺に於ける竹細工の現状。 ・竹細工に相応しい竹の種類、用途。 ・編みに適した材料としての竹の特性。 ・竹細工用の道具の話。 ・安全について。 2～8 実習 <p>丸竹を割って、剥いで、しごいてヒゴを作り、籠を編む。 各作業ごとに、講師の手本を見ながら進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸竹を割る（竹割り鉋、メジャー、手袋、鉛筆） ・割った竹を更に必要な幅近くまで割る（同上） ・割った竹を必要な厚さ近くまで薄く剥ぐ（竹割り鉋、ノギス、手袋） ・幅決めをする（幅引き、ノギス、手袋） ・厚さを決める（ノギス、切り出し小刀） ・籠を編む 						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席、作品提出						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・動きやすい靴 ・袖や裾の締まった服 						